

科目名	企業経営入門	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	本科目では、企業経営に必要な基本的知識を学ぶ。内容としては企業経営の知識体系全般をカバーする。具体的には、株式会社の仕組み（株主総会、取締役会などの機関設計を含む）、資金調達の方法、財務諸表の読み方、管理会計、経営戦略、マーケティング、組織のマネジメント、人的資源管理、内部統制とITリスク、技術経営、ベンチャー企業の特徴と成功・失敗事例などについて説明する。また、これらの経営に関する基本知識をより深く理解するために、Apple、Amazon.comなどIT関連企業の事例を取り上げる。							
授業の一般目標	①株式会社の仕組みと企業経営を構成する要素について説明できる。 ②経営理念、経営戦略、マーケティングのそれぞれの概念と関係について説明できる。 ③資金調達の方法、財務諸表の種類とその役割を理解し、その企業の概況を読み取ることができる。 ④管理会計の役割と主要な分析方法について説明できる。 ⑤組織と人材のマネジメントの重要性とそのポイントについて説明できる。 ⑥内部統制と企業経営におけるリスク（特にITリスク）について説明できる。 ⑦技術経営（MOT）と研究開発と特許の重要性について説明できる。 ⑧ベンチャー企業の特徴、マネジメントのポイント、資金調達、ベンチャー企業特有のリスクと回避策について説明できる。							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・ざっくりわかる企業経営のしくみ 遠藤 功（日本経済新聞社） ・図でわかる会社法 柴田 和史（日本経済新聞社）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 企業経営の知識体系全般における専門用語を説明できる								
☐ 思考・判断の観点 内部統制と企業経営におけるリスク（特にITリスク）をアセスメントできる								
☐ 関心・意欲の観点 紹介する参考図書や関連情報を調べることができる								
☐ 態度の観点 他の学生のプレゼンテーションに対して、積極的かつ建設的な意見を述べることができる								
☐ 技能・表現の観点 自らが調べた専門用語や事例を、分かりやすくプレゼンテーションすることができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1、2	イントロダクション、企業経営とは何か							
3、4	ビジネスモデル、企業経営入門の構成							
5、6	経営理念、ビジョンと価値観							
7、8	経営戦略、事業戦略							
9、10	市場ポジショニング論							
11、12	コア・コンピタンス論とビジネス・ゲーム論、資源ベース論							
13、14	マーケティングの役割、マーケティングのSTP							
15、16	マーケティング・ミックス、ブランド戦略							
17、18	株式と株主、株主総会							
19、20	取締役、監査役、会計参与など							
21、22	株式の発行と社債、財務諸表							
23、24	損益計算書の仕組み、貸借対照表の仕組み							
25、26	管理会計とは何か、損益分岐点分析							
27、28	投資の評価、原価計算と業績評価							
29、30	組織マネジメントの重要性、企業の組織形態							
31、32	経営管理論、大企業の支配構造							
33、34	人的資源管理、人事マネジメントの仕組み							
35、36	リーダーシップ論							
37、38	内部統制とは何か、ITリスク							
39、40	技術経営とは何か、特許と技術獲得戦略							
41、42	ベンチャー企業のマネジメント、ベンチャー企業の資金調達							
43、44	ベンチャー・キャピタル、ベンチャー企業のリスクと回避策							
45、46	同族経営の特徴、同族経営のマネジメント							
47、48	同族経営における課題、事業承継のプロセス							
49、50	事例1：Apple（1）							
51、52	事例1：Apple（2）							
53、54	事例2：Amazon.com（1）							
55、56	事例2：Amazon.com（2）							
57、58	まとめ：成功した企業と失敗した企業（1）							
59、60	まとめ：成功した企業と失敗した企業（2）							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					45	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○	○			50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品		◎	◎	◎			5	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員	澤井 直美		実務経験紹介					

科目名	マーケティング入門	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	本科目では、マーケティングとは何か、企業戦略とマーケティング・プロセス、マーケティング・リサーチと情報システム、消費者の購買行動、企業の購買行動、マーケティング戦略の展開とマーケティング・ミックス、製品ライフサイクル戦略、価格設定の課題と戦略、物流マネジメント、広告・販促・PR活動の基本などマーケティングの基礎を学ぶ。							
授業の一般目標	①マーケティングとは何かを理解する ②戦略計画とマーケティングの関係を理解する ③消費者の購買行動および企業の購買行動を理解する ④マーケティングの基本概念「セグメンテーション」、「ターゲティング」、「ポジショニング」に立脚したマーケティングの諸要素を理解する ⑤マーケティングの4つのP（商品、価格、流通チャネル、プロモーション）と各戦略のあり方について理解する							
受講条件	・企業経営入門の単位を修得済みであること							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・講義中に適宜紹介する							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 戦略計画とマーケティングに関連する専門用語を説明することができる								
☐ 思考・判断の観点 マーケティングのSTPに立脚したマーケティング・プランを立案することができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1、2	イントロダクション、基本的な用語							
3、4	5つのコンセプト							
5、6	戦略計画、事業ポートフォリオ							
7、8	マーケティング・プロセス、マーケティングのマネジメント							
9、10	マクロ環境の分析							
11、12	マーケティング・リサーチと需要予測、マーケティング・リサーチの実行							
13、14	顧客価値、顧客満足、顧客生涯価値の最大化							
15、16	カスタマー・リレーションシップ、顧客データベース・マーケティング							
17、18	消費者行動モデル、消費者の意思決定プロセス							
19、20	新商品の普及と消費者行動、行動主義的消費者理論							
21、22	ビジネス市場とは、企業の購買行動							
23、24	購買プロセス、企業の調達マネジメント／EDI							
25、26	マーケティングの進化ステップ、市場細分化							
27、28	最適な市場細分化							
29、30	ターゲット市場の設定、市場におけるポジショニング							
31、32	ブランド・エクイティの創出							
33、34	商品に関する基礎知識、商品戦略							
35、36	新商品開発戦略、商品ライフサイクル							
37、38	価格とその決定要因、商品の価格設定戦略							
39、40	商品ミックス価格設定、価格調整戦略							
41、42	流通チャネルの構造、マーケティング・システム							
43、44	チャネル設定と管理に関する意思決定、物流とロジスティクス管理							
45、46	小売業のマーケティング、卸売業のマーケティング							
47、48	マーケティング・コミュニケーション							
49、50	広告の意思決定							
51、52	販売促進、広報活動							
53、54	ダイレクト・マーケティング、人的販売の役割							
55、56	販売部隊のマネジメント、人的販売のプロセス							
57、58	グローバル市場							
59、60	まとめ							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○				50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎					50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	起業入門	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○			
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	企業に就職することだけが収入を得る手段としての選択肢ではない。自ら起業家となって、市場ニーズを見出し、必要な資金や人材を集め、新製品や新サービスを顧客へ提供する道もある。起業は成功率の低さにおいてリスクが高いとされているが、必要な知識を体系的に学習し実践することで成功確率を高めることも可能である。本科目では起業に必要な「ビジネスの基本知識」と起業家に求められる「資質・能力」等について事例を交えて系統的に理解し、起業を思い立つ起点、ビジネスアイデアからビジネスプランへの練成、実際の事業の立ち上げと展開、組織作り、マーケティング、株式とIPOなど、起業に伴う基本的な知識を段階的に習得する。							
授業の一般目標	①社会環境の変化の中での起業の位置づけを理解する ②起業家に求められる資質や能力等について理解する ③新規事業の構想方法とビジネスプランの作成方法について理解する ④事業の立上げと展開の方法について理解する ⑤新規事業における組織作りについて理解する ⑥新規事業におけるマーケティングについて理解する ⑦新規事業におけるファイナンスについて理解する ⑧新規事業における株式とIPOについて理解する							
受講条件	企業経営入門の単位を修得済みであること							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・ユニクロ監査役が書いた伸びる会社をつくる起業の教科書 安本隆晴（ダイヤモンド社）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 起業に必要な「ビジネスの基本知識」を説明することができる								
☐ 思考・判断の観点 構想した新規事業のビジネスプランを作成することができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1、2	イントロダクション、時代背景と起業家							
3、4	社長になる心構え、成功した起業家に学ぶ							
5、6	起業するということ、本当に起業が必要か考える							
7、8	起業のポイント、起業の失敗原因							
9、10	起業家の仕事の仕方、起業後の成功をめざす							
11、12	起業家に求められる能力、成功する経営者の共通項							
13、14	起業のアイデアを考える							
15、16	ビジネスモデルを考える、ジネスプランを立てる							
17、18	起業前に行うこと、参入する業界の研究と会社設立							
19、20	起業直前の準備、第1部のまとめ							
21、22	事業領域の決定、魅力的な起業テーマの利点							
23、24	アイデアの評価方法、プレゼンテーション							
25、26	新規事業で検討すべきポイント、新事業の3タイプ							
27、28	ビジョンの描き方、エグゼクティブサマリー							
29、30	事業計画書の作成方法、ビジネスプランの構成							
31、32	事業計画書作成の留意点、事業計画書に多く見られる問題点							
33、34	事業立上げの手順、成長段階毎の課題							
35、36	市場規模の推定、第2部のまとめ							
37、38	組織体制と行動規範、チーム型組織							
39、40	マネジメントチームとリーダー、組織図							
41、42	社長の役割、人材獲得のポイント							
43、44	採用と人材育成、専門家からの支援							
45、46	起業におけるマーケティング、マーケティング戦略の策定プロセス							
47、48	顧客セグメンテーション、バリューチェーン							
49、50	企業会計の仕組み、予測キャッシュフロー							
51、52	企業価値とNPV、投資とリターン							
53、54	株式・IPOとは何か、IPOのメリットデメリット							
55、56	日本のベンチャーキャピタルの特徴、日本のVCの支援機能							
57、58	起業を考えるポイント、事業プランの作成							
59、60	起業に関する各論、まとめ							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員	澤井 直美		実務経験紹介	企業実績、企業サポートあり				

科目名	会計簿記入門	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	財務諸表（主に貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書）は取引先などの信用度合いや収益力の客観的な評価のベースとなるものであり、財務諸表の見方がわかるようになることはビジネス上必要なスキルである。本科目では、企業の取引・活動を記録する手段である簿記と簿記を含む会計学の基礎を学ぶことで、財務諸表から企業活動を読み解くことができるようになることを目指す。また、財務諸表の作成過程に関する学習を通じて、会計簿記に関わる実務知識を身につけることを目標とする。							
授業の一般目標	①貸借対照表の意味を理解し、その見方がわかる。 ②損益計算書の意味を理解し、その見方がわかる。 ③簿記の仕組みを理解し、通常取引の仕訳ができる。 ④決算の手続きを理解し、簡単な試算表を作成するための手法がわかる ⑤キャッシュ・フロー計算書の意味を理解し、その見方がわかる。 ⑥簡単な財務分析を行うための指標がわかる							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・財務会計講義(第19版) 桜井久勝 （中央経済社）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる								
☐ 思考・判断の観点 財務諸表から企業の財務状態を読み解くことができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録			
1、2	イントロダクション、会計・簿記とは							
3、4	会計制度の体系と会計原則、財務諸表とは							
5、6	貸借対照表とは、資産の分類と流動資産							
7、8	固定資産・繰延資産と負債、純資産							
9、10	損益計算書とは、売上総利益と営業利益							
11、12	経常利益と税引前当期純利益、当期純利益							
13、14	複式簿記と簿記一巡の手続き、取引の二面性と仕訳							
15、16	仕訳事例、総勘定元帳							
17、18	試算表、決算整理仕訳							
19、20	精算表とB/S、P/L							
21、22	設例－仕訳							
23、24	設例－総勘定元帳、試算表、決算整理仕訳、精算表、貸借対照表、損益計算書							
25、26	資産の評価、有価証券							
27、28	棚卸資産							
29、30	固定資産							
31、32	引当金、発生主義							
33、34	現金及び現金同等物、営業活動によるキャッシュ・フロー							
35、36	投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及びキャッシュ・フローの集計							
37、38	3つの財務諸表の関係、貸借対照表							
39、40	損益計算書、キャッシュ・フロー計算書							
41、42	財務分析概論							
43、44	収益性分析							
45、46	損益分岐点分析							
47、48	安全性分析							
49、50	生産性分析・成長性分析、キャッシュ・フロー分析							
51、52	問題演習							
53、54	IFRS、連結							
55、56	収益認識会計基準							
57、58	復習 財務諸表、簿記、会計処理各論							
59、60	復習 キャッシュ・フロー計算書、財務分析、会計トピックス							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介					

科目名	管理会計	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	企業会計は誰のための会計かという観点から財務会計と管理会計に大別できる。財務会計が企業外部のステークホルダー（利害関係者）のための会計であるのに対し、管理会計は、企業内部の経営責任者を頂点とする各階層の経営管理者のための会計といえる。つまり管理会計の目的は、経営意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供することにある。本講義では、管理会計の目的と概念、原価計算・予算管理・業績評価などの考え方と手法について学ぶ。							
授業の一般目標	①制度会計としての財務会計と、内部管理目的の管理会計について、その相違点を理解する。 ②実際原価計算(個別原価計算・総合原価計算)の意義と計算方法を理解する。 ③標準原価計算の意義と計算方法を理解する。 ④その他の原価計算について、ABCや直接原価計算を用いたCVP分析の意義と計算方法を理解する。 ⑤管理会計に関して、その求められる役割や諸技法の概要を理解する。 ⑥管理会計に関して、企業の採用する経営戦略との関連性を理解する。 ⑦予算管理に関して、予算編成・予算統制の概要を理解する。 ⑧業績評価に関して、組織(職能別組織・事業部制組織)の概要と、事業部制組織における分権化の在り方を理解する。 ⑨意思決定会計の概要(短期的意思決定、長期的意思決定)とその計算方法を理解する。 ⑩資金管理の必要性及びその手法について理解する。							
受講条件	会計簿記入門の単位を修得済みであること							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・管理会計 櫻井通晴（同文館出版）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 管理会計と経営戦略・予算管理・業績評価との関連性を説明することができる								
☐ 思考・判断の観点 原価計算、ABC、CVP分析の計算を行うことができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等	授業の記録			
1、2	イントロダクション、財務会計と管理会計							
3、4	時代の変遷に伴う管理会計の発達、管理会計(講座)の全体像							
5、6	管理会計における原価計算、原価計算と損益計算書の関係、「原価」とは							
7、8	費目別計算							
9、10	費目別計算 復習							
11、12	部門別計算							
13、14	製品別計算、総合原価計算							
15、16	個別原価計算							
17、18	実際原価計算のまとめ、標準原価計算の目的と計算の流れ							
19、20	原価標準の設定、原価差異の概要と会計処理							
21、22	原価差異の分析							
23、24	ABCの目的と計算の流れ、伝統的原価計算とABC							
25、26	直接原価計算の意義、変動費と固定費の分類と計算方法							
27、28	直接原価計算と全部原価計算、直接原価計算を用いたCVP分析							
29、30	原価計算の復習							
31、32	総評							
33、34	管理会計の意義と目的、管理会計の諸技法							
35、36	経営戦略と管理会計							
37、38	経営戦略の遂行とBSC、4つの視点							
39、40	KPIの設定、BSCの分析							
41、42	予算管理の意義、予算編成							
43、44	予算統制、予算と責任会計制度							
45、46	短期的意思決定会計の意義、差額原価(収益)の概念							
47、48	自製or購入の意思決定、追加加工すべきかの意思決定							
49、50	長期的意思決定会計の意義、回収期間法を用いた意思決定							
51、52	時間価値の概念、正味現在価値法を用いた意思決定							
53、54	資金管理の意義、資金管理の全体像							
55、56	短期的・長期的な資金管理、キャッシュ・フロー管理と企業価値							
57、58	管理会計の復習							
59、60	総評							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	Web入門		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義		時間数	60	開設期	1年通年		
受講条件			開設時期		教員実務経験対象	○		
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	本科目では、インターネットの中心的なアプリケーションであるWeb（World Wide Web）の概要と、その構築に広く用いられているHTMLの基礎、およびその周辺技術を理解することを目的とする。まず、Webを実現している基礎的な技術を理解する。その後、さまざまな環境で問題なく閲覧可能なHTML・CSSの基本的な構文を身に着ける。これらと関連して使用される技術を用いて可能になるWeb上の表現について学習する。							
授業の一般目標	①インターネットとWebの概要を理解する ②「広義HTML5」とそれに含まれる「狭義HTML5」、「CSS3」、「JavaScript」の概要を理解する ③Webページのコンテンツの構造を司る「狭義HTML5」の役割を中心に、主だった各要素の意味と記述方法を理解する ④Webページのデザインを司る「CSS3」の役割と、豊かな表現方法を理解する ⑤Webページの動きを司る「JavaScript」の役割と、さまざまなAPIの概要と機能を理解する							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 HTML5を使ったWebページの各要素の意味と記述方法を説明できる								
☐ 思考・判断の観点 豊かな表現を実現するために、CSS、JavaScriptを用いて、Webページを表現できる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1、2	イントロダクション							
3、4	インターネットの世界							
5、6	Webってなんだろう、Webを見るには							
7、8	Webでできること、Webを作るには							
9、10	二種類のHTML5、HTML 1からHTML 4まで							
11、12	広義のHTML5、狭義のHTML5							
13、14	タグと要素、ドキュメントタイプの指定							
15、16	文字コードの指定、検索エンジンへの対応							
17、18	ヘッダー・フッタの要素、グローバルナビゲーションの要素							
19、20	メインコンテンツの要素							
21、22	見出しの要素、段落の要素							
23、24	箇条書きの要素、その他のHTML要素							
25、26	リンクの要素、入力フォームの要素							
27、28	診断と進捗の要素							
29、30	CSSの書き方、CSSの設置方法							
31、32	セレクタ、プロパティ							
33、34	文字を装飾するプロパティ、段落を装飾するプロパティ							
35、36	段組をするプロパティ、背景を装飾するプロパティ							
37、38	影を作ろう、角を丸くしよう							
39、40	背景をグラデーションに、鏡で反射したようなデザイン							
41、42	コンテンツを変形するとは、回転させよう							
43、44	伸縮させよう、移動させよう							
45、46	CSS3アニメーションの実装							
47、48	3次元表示させよう、3次元のアニメーション							
49、50	JavaScript							
51、52	変数、if							
53、54	要素の取得、Webページへの出力							
55、56	データの入力							
57、58	位置情報のAPI、描画のAPI							
59、60	総括							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○				45	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品			○	○			5	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員	齊藤 寛和			実務経験紹介	Webデザイナー、プログラマー			

科目名	経営組織論	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	現代社会では、多くの人々がさまざまな目的でつながり、組織を構成したり組織に所属したりしている。本講義では、「組織の成り立ち」「組織の構造」「組織の運営」「組織と人」といった側面から、組織論の基礎を学ぶ。マクロ組織論およびミクロ組織論のそれぞれについて代表的なトピックスを取り扱う。組織と人材に関する初歩的概念および用語の習得を通じて、マルチパラダイム化している今日の組織理論の多様性とその基礎的な内容を理解することが、本講義の目的であり到達目標である。							
授業の一般目標	①組織論の成立と歴史的展開を理解する ②組織のデザイン、組織の基本的な形態を理解する ③組織の成長と代表的なマクロ理論を理解する ④組織の意思決定の基本を理解する ⑤人の行動とモチベーションに関する理論を理解する ⑥リーダーシップとマネジメントに関する基本を理解する ⑦組織学習の概念と組織変革に関する基本を理解する ⑧人的資源管理の基本概念を理解する							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・講義の中で適宜紹介する							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 組織と人材に関する初歩的概念および用語を説明できる								
☐ 思考・判断の観点 人的資源管理を効率的に活用するための組織設計やワークモチベーションの方策を提案することができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等	授業の記録			
1、2	イントロダクション、組織とは、組織論の成立と展開							
3、4	マクロ組織論とミクロ組織論の視点、合理性の限界							
5、6	官僚制組織、職能性組織							
7、8	事業部組織、マトリクス組織							
9、10	組織の成長とライフサイクルモデル、組織文化のダイナミクス							
11、12	環境変化への対応と阻害要因、組織エコロジー論							
13、14	マクロ組織論の背景、コンティンジェンシー理論							
15、16	取引コスト理論、組織のネットワーク理論							
17、18	組織文化とは、組織文化の形成							
19、20	組織文化の機能、組織文化の革新							
21、22	ミクロ組織論の誕生組織の力学							
23、24	人に対する表裏の視点、認知的不協和と帰属理論							
25、26	意思決定とは、最適化意思決定と満足化意思決定							
27、28	ごみ箱モデル、グループシンク（集団浅慮）							
29、30	テイラーの科学的管理法、科学的管理法による動機づけ							
31、32	ホーソン実験と人間関係論、人間資源アプローチと欲求説							
33、34	過程説：期待理論、動機づけ衛生理論							
35、36	内発的動機づけ、達成動機づけ							
37、38	対人的影響、リーダーシップ・カリスマ							
39、40	管理過程、リーダーシップエンジン							
41、42	マネジリアルグリッドとPM理論、3つのリーダーシップ理論							
43、44	SL理論とリッカートのシステム4、変革型リーダーシップとサーバントリーダーシップ							
45、46	パワー関係のダイナミクス、コンフリクトモデル							
47、48	個人・集団間のコンフリクト、コンフリクトマネジメント							
49、50	組織学習概念、学習サイクル							
51、52	戦略的組織変革、移行プロセスのマネジメント							
53、54	HRM・MBQ、エンパワーメント							
55、56	キャリアデザイン、エンプロイヤビリティー							
57、58	組織不祥事の発生と原因、組織不祥事の対応							
59、60	講義のまとめ							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス事例から学ぶ統計入門	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	本科目では、ビジネスにおける様々なデータを分析するために、統計学の基本的、かつ基礎的な内容を学ぶ。各回の講義では、簡単な例として、個人経営の商店が統計学を自分たちの商売に取り入れていく様子を物語形式で読み解いていく。統計的な考えを基に、自身でデータを集め、分析し、更にそれをまとめて他者に示す根拠とするにはどのようにすれば良いのか、基本的な方法を分かりやすく学んでいく。							
授業の一般目標	①統計的な思考法を身に着ける ②自身でデータを集め、分析し、結果を考察するための基礎的な手法について習得する							
受講条件	・平均、平方根、二次方程式などの基本的な数学を習ったことがあること。 ・Excelの操作に支障が無いこと							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・統計学がわかる 向後 千春、富永 敦子 （技術評論社） ・統計学がわかる 【回帰分析・因子分析編】 向後 千春、富永 敦子 （技術評論社） ・完全独習 統計学入門 小島 寛之 （ダイヤモンド社）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 基礎的な統計手法の用途・特徴を説明できる								
☐ 思考・判断の観点 集めたデータと目的に応じた基礎的な統計手法を適用して、分析を行うことができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 E x c e l の関数を用いた統計分析を行うことができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録			
1、2	イントロダクション、質的データ・量的データ							
3、4	度数分布表とヒストグラム、実践編・ヒストグラムを作る							
5、6	平均値、中央値、最頻値、分散と標準偏差							
7、8	標準変化量と偏差値、実践編・偏差値を求める							
9、10	母集団・標本、確率・確率分布							
11、12	一様分布・二項分布・正規分布、実践編・確率							
13、14	標準正規分布、統計的推定の基礎							
15、16	信頼区間・区間推定、実践編・区間推定をする							
17、18	統計的検定、t検定(対応なし)							
19、20	実践編・t検定(対応なし)							
21、22	等分散を仮定しないt検定、F検定							
23、24	t検定(対応あり)、実践編・t検定(対応あり)							
25、26	要因・水準、効果・誤差							
27、28	Bonferroni法、実践編・1要因の分散分析							
29、30	2要因の分散分析、交互作用							
31、32	実践編・2要因の分散分析							
33、34	観測度数・期待度数、カイ二乗検定							
35、36	実践編・カイ二乗検定							
37、38	相関とは、相関係数、相関関係・因果関係							
39、40	実践編・相関							
41、42	無相関検定、単回帰分析、最小二乗法							
43、44	実践編・単回帰分析							
45、46	偏相関・偏相関係数、相関分析							
47、48	実践編・偏相関							
49、50	重回帰分析とは、マルチコ現象、偏回帰係数							
51、52	実践編：重回帰分析							
53、54	総復習（1）							
55、56	総復習（2）							
57、58	質問紙調査法(1)							
59、60	質問紙調査法(2)							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○		50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○		○		50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	業務アプリケーションの進化と開発	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ビジネスの現場を支える業務アプリケーションは、ビジネスモデルとコンピュータ技術の両者の進化に伴い変遷してきた。本科目では代表的な産業のビジネス上の課題と、その解決策として提案されてきた業務アプリケーションの歴史について振り返り、今後の業務アプリケーション開発のあり方を考える。また、業務アプリケーションの背景にある企業情報システムのアーキテクチャおよび開発手法についても学び、既存業務アプリケーションの成り立ちが述べられるようにする。							
授業の一般目標	①代表的な産業のビジネス課題と、それに対応する業務アプリの歴史を理解し、説明できる ②業務アプリの背景にある企業情報システムのアーキテクチャを理解し、説明できる ③業務アプリの開発に用いられている様々な開発手法とその特徴を理解し、説明できる							
受講条件	プロジェクトマネジメント入門の単位を修得済みであること							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・仕事の成功はダンドリで決まる！カレーで学ぶプロジェクトマネジメント 勝 真一郎 (Amazon,Kindle) ・明日のIT経営のための情報システム発展史 総合編 経営情報学会情報システム発展史特設研究部会 (専修大学出版局)							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 業務アプリケーションの開発に関する基礎知識を身につけ、業務アプリの歴史、システムアーキテクチャ、開発手法を説明できる。								
☐ 思考・判断の観点 運用している業務アプリの改善点を列挙し、提案することができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録			
1、2	イントロダクション、企業経営と業務							
3、4	業務アプリケーションとは、ICTの進化と開発手法							
5、6	企業と情報システム、様々な情報システムの例							
7、8	情報システム部門の仕事、他組織との関連							
9、10	製造業の特徴、製造業の業務システム							
11、12	開発・設計業務システム、購買管理システム							
13、14	生産管理システム、生産管理の業務とシステム							
15、16	SCMとライフサイクルマネジメント							
17、18	流通業の特徴、流通業の業務システム							
19、20	POSとEDI、流通業における情報システムの効果							
21、22	金融業の特徴、金融業の業務システム							
23、24	ATMとネットバンキング、金融業における情報システムの効果と課題							
25、26	EAとは、EAの必要性							
27、28	EAの作成、EAの活用							
29、30	システム開発の内作と外作、外注管理のポイント							
31、32	オフショア開発のポイント、内製化のポイント							
33、34	ウォーターフォール、アジャイル開発とは							
35、36	アジャイル開発のポイン、アジャイル開発の課題とポイント							
37、38	エクストリームプログラミングとは、XPのポイント							
39、40	現場でのXPの実施と今後							
41、42	ベアプログラミングとは、ベアプログラミングのポイント							
43、44	ベアプログラミングの応用							
45、46	ERPとは、ERPの導入に至る要因							
47、48	ERPの導入に至るステップ、ERPの導入パターン							
49、50	ERP導入の体制、ERP導入のタスク							
51、52	ERP導入の評価、ERP導入の課題と対応							
53、54	稼働後のシステム運用と変更、業務アプリケーション改善のポイント							
55、56	業務アプリケーション改革のポイント、改善・改革推進の実務的ポイント							
57、58	業務アプリケーションの歴史、企業情報システムのアーキテクチャ							
59、60	業務アプリの開発手法、業務アプリの運用と改善							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○		50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○		○		50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員	中村 誠			実務経験紹介	企業の情報システム部門での勤務実績あり ITコンサルタント			

科目名	サービステクノロジー論	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	デジタル技術の発展とインターネット利用の拡充は、様々な情報サービスや新しいビジネスモデルを創出だけでなく、人間社会へ多大な影響をもたらした。本科目では、アナログ情報のデジタル化から圧縮技術の基礎を学び、その上でインターネットの利便性の広がりに伴う様々な技術的取り組みを理解する。さらに、これらの技術革新が産業構造や一般生活にもたらした影響と変化について、事例を以って理解し、様々なサービスモデルの創成と人々のITスキルの向上が今後の社会をどのように変化させていくのか、その考察も試みる。							
授業の一般目標	①アナログデータをデジタルデータに変換する基礎理論 ②デジタルデータの圧縮技術の基礎理論 ③無線通信技術を中心とするインターネットの進化 ④仮想化技術の基礎とビジネスへの影響 ⑤一連の情報技術革新の産業や市民生活への影響							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・仕事の成功はダンドリで決まる！カレーで学ぶプロジェクトマネジメント 勝 真一郎（Amazon, Kindle） ・明日のIT経営のための情報システム発展史 総合編 経営情報学会情報システム発展史特設研究部会（専修大学出版局）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 A/D変換、圧縮技術、無線通信技術の基礎理論を理解し、説明することができる								
☐ 思考・判断の観点 情報技術革新によって産業やビジネス、市民生活にどのような影響が生じるのか論じることができる								
☐ 関心・意欲の観点 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1、2	サービステクノロジーとは、主なテクノロジー							
3、4	サービスモデルの変遷、全体構成と学習の進め方							
5、6	情報のデジタル化、アナログ信号からデジタル信号への変換							
7、8	アナログ信号の標準化、標本値の量子化							
9、10	データ圧縮の必要性、データ圧縮の基本原理							
11、12	色差の省略による圧縮、ハフマンツリーによる圧縮プロセス							
13、14	画像データの特徴、画像データの二次元分析							
15、16	画像データの量子化と符号化、動画データの圧縮							
17、18	圧縮技術の標準化の推移、コンテンツの配信速度と圧縮技術の進歩							
19、20	身の回りの映像技術、第1部の総括							
21、22	インターネット技術の基本的な考え方、インターネットと放送の融合とは							
23、24	インターネットが電話網を置き換える、インターネットで伝わる情報							
25、26	コンピュータの仮想化技術、計算リソースのユーティリティ化							
27、28	ウェブサービスの連携、ウェブのコンピュータ化							
29、30	モバイル通信の高速化と通信量の増加、モバイル通信による情報形態の変化							
31、32	携帯電話と情報端末の融合、無線ネットワークと端末のモバイル化							
33、34	ウェブ連携がもたらす新しい情報エコシステム、基盤テクノロジーの進化と相互依存							
35、36	テクノロジーの担い手、第2部の総括							
37、38	映像の効果と広がり、投稿動画の急伸と商用化							
39、40	事例：USTREAM Asia、ビデオ制作と投稿							
41、42	マスメディアの変化、メディア発信者の多様化							
43、44	国内外メディアのIT活用事例、電子書籍と個人出版							
45、46	ソーシャルメディアとは、ソーシャルメディアの広がり							
47、48	ソーシャルメディアのビジネスモデル、ソーシャルネットワーキングサービスの活用							
49、50	クラウド・サービスとは、クラウド・サービスの分類							
51、52	クラウドの産業への影響、情報端末とクラウドの活用							
53、54	IoTとは、スマートフォンを中核とするIoT							
55、56	産業の中のIoT、IoEへの進化							
57、58	デジタル技術のまとめ、デリバリ技術のまとめ							
59、60	サービス技術のまとめ、データから英知へ							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	プロジェクトマネジメント入門	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	ビジネス環境の変化が加速化する現在、非常設の目的達成型組織であるプロジェクトによる活動が増加している。本科目では、プロジェクトマネジメントの入門編として、プロジェクトという活動の特徴と、それをマネジメントする際の基礎的知識を体系的に学ぶ。後半では情報システム開発プロジェクトの特徴とマネジメントの勘所について事例を使いながら解説し、初歩的な情報システム開発のプロジェクト計画書が作成できるようにする。				
授業の一般目標	プロジェクトマネジメントの基本的知識を得て、初歩的な情報システム開発のプロジェクト計画書を作成することを目的とする ①プロジェクトのライフサイクルと運営のしくみを理解し、説明できる ②WBSをベースとしたシステム開発の計画書が作成できる ③クリティカルパスの概念を理解し、クリティカルパス分析ができる ④コスト、品質、リスク、調達など、それぞれに関するマネジメントについて理解し、説明できる				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・仕事の成功はダンドリで決まる！カレーで学ぶプロジェクトマネジメント 勝 真一郎（Amazon, Kindle） ・カレーで学ぶプロジェクトマネジメント 勝 真一郎（デザインエッグ）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・プロジェクトのライフサイクルと運営のしくみを理解し、説明できる ・コスト、品質、リスク、調達など、それぞれに関するマネジメントについて理解し、説明できる					
☐ 思考・判断の観点					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・WBSをベースとしたシステム開発の計画書が作成できる ・クリティカルパスの概念を理解し、クリティカルパス分析ができる					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等		授業の記録	
1～4	「オリエンテーション」 第1章 プロジェクトマネジメントとは？ 第2章 何故、プロジェクトマネジメントなのか？ 第3章 講義の全体の流れ 第4章 勉強するにあたって				
5～8	「プロジェクトのライフサイクル」 第1章 プロジェクトを取り巻く課題 第2章 プロジェクトのライフサイクル 第3章 プロジェクト型組織の形態 第4章 プロジェクト運営のしくみ				
9～12	「管理の基本PDCA」 第1章 管理するには、まず測る 第2章 原因を探って改善する 第3章 PDCAとは何か？ 第4章 変更への対応力を磨く				
13～16	「プロジェクトの立ち上げプロセス」 第1章 問題意識を高めよう 第2章 規模の見極め 第3章 関係者を組み立てる 第4章 プロジェクトの立ち上げ				
17～20	「プロジェクトのタイムマネジメント」 第1章 WBSの描き方 第2章 タスクの順序決め 第3章 所要時間の見積り 第4章 スケジュールの作成とその利用				
21～24	「クリティカルパスの見つけ方と対応」 第1章 クリティカルパスとは 第2章 往路分析と復路分析 第3章 クリティカルパス分析 第4章 期間短縮の試み				

25～28	「プロジェクトのコストマネジメント」 第1章 予算を立てよう 第2章 発生コストの把握 第3章 アーンドバリューマネジメント 第4章 実行管理と対策		
29～32	「プロジェクトの品質マネジメント」 第1章 品質をチェックするとは？ 第2章 品質目標設定のしかた 第3章 品質確認のプロセス 第4章 不具合の発見と改修		
33～36	「プロジェクトの組織マネジメント」 第1章 組織で仕事をする 第2章 典型的な組織形態 第3章 プロジェクトと場 第4章 プロジェクトと人財育成		
37～40	「プロジェクトのコミュニケーションマネジメント」 第1章 効果的な報告 第2章 コミュニケーションの頻度と会議体 第3章 デジタルコミュニケーションの利用 第4章 合意の形成		
41～44	「プロジェクトのリスクマネジメント」 第1章 リスク分析について 第2章 プラスのリスクとマイナスのリスク 第3章 発生確率・影響度マトリックス 第4章 リスクの監視		
45～48	「プロジェクトの調達マネジメント」 第1章 購入・取得計画の立案 第2章 納入者の選定 第3章 契約管理 第4章 契約の終結		
49～52	「システム要求仕様書」 第1章 危険な思い込み 第2章 クライアントの要求を探る 第3章 要求仕様書を作る 第4章 データフロー図を描く		
52～56	「プロジェクト計画書の作成」 第1章 プロジェクト計画書 第2章 プロジェクト計画書の作成(1) 第3章 プロジェクト計画書の作成(2) 第4章 プロジェクト計画書の活用		
57～60	「まとめ」 第1章 基本はPDCA 第2章 基本は人間同士のコミュニケーション 第3章 基本は人の能力発揮 第4章 成功するようにしかける		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎				◎		50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎		○		◎		50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	経営戦略	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	有
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	本科目では、全体を通して経営戦略のフレームワークを学習する。特に、競争環境の変化が激しく、さまざまなプレーヤーが企業の経営に影響を与えと言われる今日に即した、実践的経営戦略を学ぶことを狙いとする。講義を通じ、定説的な知識を習得するだけでなく、経営戦略論の概念や発展的なフレームワークを使って、受講者が企業の戦略やビジネスモデルを文章や図示により論じられるようになることをゴールとする。				
授業の一般目標	①経営戦略論の歴史的展開を理解する ②経営環境の外部分析の方法を習得する ③企業内部の分析方法を習得する ④ポジショニングアプローチを理解する ⑤資源ベース戦略論を理解する ⑥イノベーションに関する理論を理解する ⑦ビジネスモデル分析の理論と手法を習得する ⑧戦略的思考能力を包括的に習得する				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・講義の中で適宜紹介する				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・経営戦略のフレームワークを理解し、説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・経営戦略論の概念や発展的なフレームワークを使って、企業の戦略やビジネスモデルを文章や図示により論じることができる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・SWOT分析やバリューチェーン分析、ビジネスモデル分析などの分析手法を用いて経営分析を行うことができる					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1～4	「経営戦略を学ぼう（オリエンテーション）」 第1章 はじめに 第2章 経営戦略とは何か 第3章 経営戦略の定義と構成要素 第4章 経営戦略のレベルと関係性				
5～8	「経営戦略論の系譜」 第1章 経営戦略研究の流れ 第2章 経営環境の歴史的流れ（～1970年代ごろまで） 第3章 経営環境の歴史的流れ（1980年代～現代まで） 第4章 経営戦略の5つの考え方				
9～12	「戦略と事業ドメイン」 第1章 戦略の対象範囲 第2章 事業領域の設定 第3章 マーケティング理論との接近点 第4章 戦略形成のプロセスにおける計画性と創発性				
13～16	「経営分析の代表的なアプローチ（1）」 第1章 企業における戦略の策定プロセス 第2章 経営管理から戦略的計画立案へ 第3章 アンソフの経営戦略論とアンソフマトリクス 第4章 PPM理論				
17～20	「経営分析の代表的なアプローチ（2）」 第1章 経営戦略の策定と実行の流れ 第2章 外部環境分析（PEST） 第3章 企業内部の分析（SWOT） 第4章 クロスSWOTによる戦略示唆				
21～24	「ポジショニングアプローチ（1）」 第1章 ポジショニングアプローチとは 第2章 S-C-Pモデル 第3章 業界内の構造分析（戦略グループ論） 第4章 3つの基本戦略				

25～28	「ポジショニングアプローチ（２）」 第1章 バリュチェーン分析 第2章 ５フォースによる業界分析 第3章 ポーター流の「戦略」の意味 第4章 戦略的ポジショニングの6原則		
29～32	「資源ベース戦略論」 第1章 資源ベース戦略論とは 第2章 コア・コンピタンス概念 第3章 J, BバーニーとVRIO分析 第4章 活動フィットと活動システム論への発展		
33～36	「経営戦略と持続的競争優位」 第1章 ポジショニングアプローチとRBVの接近点 第2章 イノベーションとは何か 第3章 シュンペーターのイノベーション概念 第4章 ドラッカーのイノベーション概念		
37～40	「イノベーションの普及理論」 第1章 M. ロジャースとJ. ムーアのイノベーションの普及理論 第2章 イノベーションの日米比較 第3章 イノベーションの種類 第4章 イノベーションのジレンマ		
41～44	「発展的イノベーション論」 第1章 技術イノベーションからバリュー・イノベーションへ 第2章 ブルーオーシャン戦略とは 第3章 シルク・ド・ソレイユの事例 第4章 戦略キャンパス		
45～48	「ビジネスモデル分析（１）」 第1章 ビジネスモデルの定義と構成要素 第2章 戦略モデル 第3章 オペレーションモデル 第4章 収益モデル		
49～52	「ビジネスモデル分析（２）」 第1章 ジョンソン&クリステンセン&カガーマンのビジネスモデル分析 第2章 ポーターの活動システム分析による説明のしかた 第3章 ブルーオーシャンの戦略キャンパスによる説明のしかた 第4章 戦略ストーリーによる説明のしかた		
52～56	「ICT時代の経営戦略」 第1章 第４の経営資源 第2章 データと知識 第3章 経営戦略の歴史的展開と情報システムの発展 第4章 経営戦略と銀の弾丸		
57～60	「戦略的思考とは（まとめ）」 第1章 ビジョンやシナリオとの関係性 第2章 「戦略」とは呼べないもの 第3章 組織の暴走 第4章 おわりに		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎		50	秀、S（４）：９０点以上
小テスト	○	◎	○		◎		50	優、A（３）：８０点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（２）：７０点以上
授業態度							なし	可、C（１）：６０点以上
発表・作品							なし	不可、E（０）：５９点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はG P A点数
担当教員		澤井 直美		実務経験紹介				

科目名	eコマース実践論	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	○
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	講義を通して、インターネット上でビジネスを推進する中で必要となる知識を習得する。特にBtoCでネットショップを開設することを前提にして準備しないといけないもの、考慮しておかないといけないこと（セキュリティ、ブランディング、品ぞろえ、ネット上でのホスピタリティ、リスク管理など）を整理する。ネットショップを立ち上げる実務知識を習得することで、自身でネットショップの立ち上げ、ネットショップを運営している方へのアドバイスもできるようになることを目標とする。				
授業の一般目標	①ネットショップをとりまくビジネス環境を理解する。 ②ネットショップの出店に必要な手順と知識を理解する。 ③ネットショップ実務に必要な法規関連の知識を理解する。 ④ネットショップ実務に必要なセキュリティ関連の知識を理解する。 ⑤ネットショップを制作するためのWebサイト設計の方法と必要な情報、素材を理解する。 ⑥ネットショップに集客するための具体的施策を理解し、専門業者に制作を依頼できる。 ⑦ネットショップ運用のための日々の制作業務、マネジメント業務、顧客対応を理解する。				
受講条件	企業経営入門の単位を修得済みであること。				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・改訂版 ネットショップ検定公式テキストネットショップ実務士レベル1 一般財団法人ネットショップ能力認定機構 （著） （日本能率協会マネジメントセンター）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・ネットショップを立ち上げる実務知識（出店手順、法規、セキュリティ）を理解し、説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・ネットショップに集客するための具体的施策を実施できる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・ネットショップを制作するためのWebサイト設計の方法と必要な情報、素材を用意することができる					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1～4	「EC業界とネットメディアの動向」 第1章 オリエンテーション 第2章 EC業界の定義とネットショップの市場規模 第3章 インターネットメディアの動向 第4章 インターネットビジネスのプレーヤー				
5～8	「ネットショップの出店形態と特徴」 第1章 ショッピングモール店と独自ドメイン店の違い 第2章 ショッピングモール店と独自ドメイン店の比較 第3章 モバイルショッピングサイト 第4章 ネットショップ支援サービス				
9～12	「ネットショップ実務の共通知識(1)【法規関連】」 第1章 インターネットに関連する法律の動向 第2章 商取引に関する法規 第3章 商材に関する法規（1） 第4章 商材に関する法規（2）				
13～16	「ネットショップ実務の共通知識(2)【セキュリティ関連】」 第1章 情報セキュリティ対策（1） 第2章 情報セキュリティ対策（2） 第3章 システムのセキュリティ 第4章 運用のセキュリティ				
17～20	「ネットショップ事業の準備」 第1章 商品開発 第2章 価格決定 第3章 流通 第4章 必要設備と決裁方法				
21～24	「ネットショップ事業計画の立て方」 第1章 事業計画の考え方（1） 第2章 事業計画の考え方（2） 第3章 実行計画の立て方（1） 第4章 実行計画の立て方（2）				

25～28	「ネットショップの制作（1）」 第1章 必要なページとサイト構造 第2章 カラーデザイン 第3章 トップページ要素（1） 第4章 トップページ要素（2）		
29～32	「ネットショップの制作（2）」 第1章 商品ページ（1） 第2章 商品ページ（2） 第3章 商品基本情報と商品写真 第4章 特定商取引法に基づく表示		
33～36	「ネットショップの制作（3）」 第1章 注文フォーム 第2章 お客様と信頼関係を結ぶためのページ 第3章 素材の制作 第4章 ユーザビリティとアクセシビリティ		
37～40	「ネットプロモーション（1）」 第1章 SEM [Search Engine Marketing]（1） 第2章 SEM [Search Engine Marketing]（2） 第3章 メールマガジン、アフィリエイトとプレスリリース 第4章 ショッピングモール店のプロモーション		
41～44	「ネットプロモーション（2）」 第1章 消費者の購買行動の変化とO2O 第2章 SNSのマーケティング活用 第3章 プロモーション担当者の業務（1） 第4章 プロモーション担当者の業務（2）		
45～48	「ネットショップの運用業務(1)」 第1章 運営担当者のルーティン業務（1） 第2章 運営担当者のルーティン業務（2） 第3章 運営担当者のその他の業務 第4章 運営業務の注意事項		
49～52	「ネットショップの運用業務(2)」 第1章 制作担当者のルーティン業務（1） 第2章 制作担当者のルーティン業務（2） 第3章 マネジメント担当者の業務（1） 第4章 マネジメント担当者の業務（2）		
52～56	「ネットショップの運用業務（3）」 第1章 メールマガジン(1) 第2章 メールマガジン(2) 第3章 問合せ対応・クレーム対応（1） 第4章 問合せ対応・クレーム対応（2）		
57～60	「優良ショップから学ぶ」 第1章 ケーススタディ（1） 第2章 ケーススタディ（2） 第3章 ケーススタディ（3） 第4章 ケーススタディ（4）		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎		50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○		◎		50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員	オムニバス形式授業			実務経験紹介	ネットショップ運営者他			

科目名	経済学入門	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	経済学とは効率と公平について考える学問であるが、本科目では効率についての考え方を中心に学ぶ。効率とは「限られた資源を活用して大きな成果をあげる」ことである。まず、市場取引において効率的に行動するために、消費者や企業はどのような行動をとるのかについての理論を学ぶ。次に、一定の条件を満たせば自由な市場取引に任せると効率がよいことを学ぶとともに、どのようなときに非効率が生じ、どのような対策が有効かを理解する。これらと関連する日常生活や仕事における具体的な事例を通じて、効率的な解決策を考えることができるようになるのが本科目の最終目標である。				
授業の一般目標	①日常生活や仕事において起こっている経済問題とはどのようなものであるかを理解し具体例を用いて説明できる。 ②経済学の思考パターンを習得し、そのパターンに沿って、日常生活や仕事での経済的な課題について、解決策を考えることができる。 ③価格の決まり方と価格調整の社会的意義を理解する。 ④満足度を最大化させるための消費者の合理的な意思決定理論について理解し、その理論を使って、扱った事例と類似の経済的課題について適切な判断を下すことができる。 ⑤利潤最大化のための企業の合理的な意思決定理論について理解し、その理論を使って、扱った事例と類似の経済的課題について適切な判断を下すことができる。 ⑥自然独占・情報の不完全・外部効果の場合には市場に任せると非効率（市場の失敗）が起こるので、対策が必要であることを理解する。 ⑦人間は必ずしも合理的に行動するとは限らず、非合理性にも一定のパターンがあることを理解した上で、扱う事例と類似の経済課題に関して合理的な判断を下すことができる。				
受講条件	企業経営入門の単位を修得済みであること。				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・ケーススタディで学ぶ 入門 ミクロ経済学 石川秀樹（PHP研究所） ・試験攻略入門塾 速習! ミクロ経済学 石川秀樹（中央経済社）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・日常生活や仕事において起こっている経済問題とはどのようなものであるかを理解し具体例を用いて説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・経済学の思考パターンを習得し、そのパターンに沿って、日常生活や仕事での経済的な課題について、解決策を考えることができる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1～4	「思考法としての経済学」 第1章 科目全体の説明、＜ケース＞営業マンのガソリン代を節約せよ! 第2章 経済学の思考法 第3章 インセンティブ・機会費用・トレードオフ 第4章 第1回の＜ケース＞への当てはめ				
5～8	「価格の決まり方」 第1章 ＜ケース＞来年の価格を予想せよ! 第2章 需要曲線と供給曲線 第3章 ワルラス調整とマーシャル調整 第4章 第2回の＜ケース＞への当てはめ				
9～12	「市場経済と計画経済」 第1章 ＜ケース＞社内に市場競争を導入せよ! 第2章 市場経済と計画経済の長所と短所 第3章 企業の存在意義 第4章 第3回の＜ケース＞への当てはめ				
13～16	「消費者の行動」 第1章 ＜ケース＞値下げでお客を取り戻せ! 第2章 所得の変化が消費に与える影響 第3章 価格の変化が消費に与える影響 第4章 第4回の＜ケース＞への当てはめ				
17～20	「損益分岐点と操業停止点」 第1章 ＜ケース＞赤字店舗はなぜ閉店しないのか? 第2章 様々な費用 第3章 損益分岐点と操業停止点 第4章 第5回の＜ケース＞への当てはめ				

21～24	「利潤最大となる受注量の決定」 第1章 ＜ケース＞この案件は受注すべきか？ 第2章 収入と費用、平均と限界 第3章 利潤最大となる受注量の決定 第4章 第6回の＜ケース＞への当てはめ		
25～28	「ゲーム理論」 第1章 ＜ケース＞ライバルの値下げに応戦すべきか？ 第2章 寡占の特徴とゲーム理論 第3章 囚人のジレンマとフォークの定理 第4章 第7回の＜ケース＞への当てはめ		
29～32	「独占企業の生産行動」 第1章 ＜ケース＞お客によって値段を変えたい！ 第2章 独占企業の生産行動 第3章 価格差別 第4章 第8回の＜ケース＞への当てはめ		
33～36	「効率と公平」 第1章 ＜ケース＞経済成長が幸福を増やすとは限らない！ 第2章 効率と公平、パレート最適 第3章 余剰分析と厚生経済学の基本定理 第4章 第9回の＜ケース＞への当てはめ		
37～40	「費用逓減産業（自然独占）」 第1章 ＜ケース＞なぜ電力・ガスの地域独占は崩れたか？ 第2章 費用逓減産業とは？ 第3章 自然独占への対策 第4章 第10回の＜ケース＞への当てはめ		
41～44	「外部経済と外部不経済」 第1章 ＜ケース＞禁煙報奨金を導入すべきか？ 第2章 外部不経済 第3章 外部経済 第4章 第11回の＜ケース＞への当てはめ		
45～48	「公共財」 第1章 ＜ケース＞企業のイメージ広告はどの部門が負担する？ 第2章 公共財とは？ 第3章 公共財の最適供給量と市場の失敗 第4章 第12回の＜ケース＞への当てはめ		
49～52	「逆選択とモラルハザード」 第1章 ＜ケース＞自社ブランドか大手ブランドの活用か？ 第2章 逆選択 第3章 モラルハザード 第4章 第13回の＜ケース＞への当てはめ		
52～56	「期待効用仮説」 第1章 ＜ケース＞成果型賃金を導入すべきか？ 第2章 リスク愛好・中立・回避 第3章 期待効用仮説 第4章 第14回の＜ケース＞への当てはめ		
57～60	「行動経済学」 第1章 ＜ケース＞人は必ずしも合理的とは限らない！？ 第2章 言い方で判断が変わる【フレーミング効果】 第3章 損と得では態度が変わる【プロスペクト理論】 第4章 第15回の＜ケース＞への当てはめ		

成績評価方法

1 授業内で小テストを行う。
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。
3
4

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介							

科目名	ネットマーケティング論	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	ネットマーケティングは、情報技術の進化と共に新しい理論や評価基準が日々生まれていく、移り変わりが激しい分野のひとつである。本科目では、ネットマーケティングをビジネスとテクノロジーの両面から眺め、ネットマーケティング戦略の基礎およびインターネット広告の配信技術を知り、具体的事例を通して様々なネットマーケティング手法を学習する。加えて、ネットマーケティングにおける重要な指標と効果測定の方法を身に付けることで、分析結果に基づいてビジネス戦略の改善案を策定できるようになることを目標とする。				
授業の一般目標	①ネットマーケティングの基礎的な手法と主な指標を理解し、自分の言葉で説明できる ②広告の種類と配信テクノロジーを理解し、自分の言葉で説明できる ③ネットマーケティングの効果測定の方法と改善策を理解し、自分の言葉で説明できる ④ネットマーケティング戦略の立案方法から効果測定までの一連の流れを説明できる ⑤ネットマーケティングの手法を理解し、自分の考えをまとめることができる				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・改訂版 ネットショップ検定公式テキストネットショップ実務士レベル1 一般財団法人ネットショップ能力認定機構 （著） （日本能率協会マネジメントセンター）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・ネットマーケティングの基礎的な手法と主な指標を理解し、自分の言葉で説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・ネットマーケティングの手法を理解し、自分の考えをまとめることができる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・ネットショップを制作するためのWebサイト設計の方法と必要な情報、素材を用意することができる					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1～4	「ネットマーケティングとは」 第1章 オリエンテーション 第2章 マーケティング再入門 第3章 ネットマーケティングとは 第4章 ネットマーケティングの歴史と展望				
5～8	「ネットマーケティング戦略の考え方」 第1章 ネットマーケティング戦略とは 第2章 現状分析：マーケティングリサーチ 第3章 戦略の立案 第4章 戦略立案の事例				
9～12	「ネットマーケティング指標基礎」 第1章 マーケティング戦略の指標とは 第2章 オウンドメディアの指標 第3章 バイドメディア、アールドメディアの指標 第4章 指標の関連性				
13～16	「インターネット広告の仕組み」 第1章 インターネット広告の歴史 第2章 インターネット広告の役割とメリット 第3章 インターネット広告の種類と特徴1 第4章 インターネット広告の種類と特徴2				
17～20	「広告配信技術基礎」 第1章 検索連動型広告 第2章 ディスプレイ広告 第3章 ターゲティング技術 第4章 ビッグデータの活用				
21～24	「広告の効果測定」 第1章 効果測定のPDCA 第2章 タグマネジメント 第3章 アトリビューション分析1 第4章 アトリビューション分析2				

25～28	「コンテンツマーケティング」 第1章 コンテンツマーケティングとは 第2章 コンテンツマーケティングの効果 第3章 コンテンツの種類 第4章 コンテンツマーケティングの実践		
29～32	「ソーシャルメディアマーケティング」 第1章 ソーシャルメディアマーケティングとは 第2章 ソーシャルメディアマーケティングのポイント 第3章 ソーシャルメディアでのリスク対策 第4章 ソーシャルメディアの活用		
33～36	「O2Oマーケティング」 第1章 O2Oマーケティングとは 第2章 実施に向けてのポイント 第3章 プロモーションの事例1 第4章 プロモーションの事例2		
37～40	「スマホアプリマーケティング」 第1章 スマホアプリマーケティングとは 第2章 ASO対策1 第3章 ASO対策2 第4章 レビューの工夫		
41～44	「データマネジメント」 第1章 データマネジメントの重要性 第2章 データとは 第3章 利用プロセス 第4章 活用事例		
45～48	「ネットマーケティングの効果検証」 第1章 ネットマーケティングの効果測定 第2章 ネットリサーチ 第3章 効果測定のプロセス 第4章 ネットリサーチからの効果測定		
49～52	「ウェブサイトの改善」 第1章 現状分析 第2章 カスタマージャーニーマップの作成 第3章 課題の抽出 第4章 改善プラン作成		
52～56	「ウェブサイト以外の改善」 第1章 直面する主な課題と改善ポイント1 第2章 直面する主な課題と改善ポイント2 第3章 ソーシャルメディアのKPI改善1 第4章 ソーシャルメディアのKPI改善2		
57～60	「まとめ」 第1章 戦略立案～集客施策（広告） 第2章 集客施策（その他） 第3章 効果検証の基礎知識 第4章 改善の基礎知識		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎		50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○		◎		50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	テクニカルライティング		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義		時間数	60	開設期	1年通年		
受講条件			開設時期		教員実務経験対象	無		
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	理工系学生にとって文章作成は重要である。在学中はレポートを。社会に巣立ってからは報告書や企画書、提案書を分かりやすく過不足なく書かなくてはならない。本科目では分かりやすい文章を書くためのテクニックであるテクニカルライティングやロジカルライティングを学習する。また、より実践的な提案書や報告書の書き方を学習する。							
授業の一般目標	①分かりやすい文章を書くために構成方法や情報の取捨選択の重要性について学習する ②分かりやすい文章を書くためのテクニックを学習する ③より伝わる文章の書き方を学習する ④読みやすさを高めるポイントを学習する ⑤分かりやすい、読みやすい企画書・提案書を書くことができる							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・技術者のためのテクニカルライティング入門講座 高橋慈子 （翔泳社）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点								
☐ 思考・判断の観点 ・分かりやすい文章を書くために情報の取捨選択をし、適切な構成にすることができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・授業で学習したテクニックを使って、日記を書くことができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・分かりやすい、読みやすい企画書・提案書を書くことができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1、2	理系人に必要な文章術とは							
3、4	「論理的」とは何か							
5、6	ロジカルライティングとは							
7、8	テクニカルライティングとは							
9、10	ロジックの組み立て方							
11、12	文、文章、文書の違い							
13、14	一文一義の原則と短文表現							
15、16	5W2Hの活用							
17、18	話し言葉と書き言葉の使い分け							
19、20	接続詞の活用							
21、22	簡潔な文章を書くコツ							
23、24	文章を書く順番							
25、26	形容詞、名詞、動詞の使い方							
27、28	否定表現の使い方							
29、30	受動態と能動態の使い分け							
31、32	文章の締めくくり方							
33、34	要素の配置と書式							
35、36	文章のブロック化							
37、38	括弧の使い方							
39、40	フォントのセオリー							
41、42	効果的な箇条書きの方法							
43、44	カタカナ語と英字表記の基本的なルール			作品となる文章の執筆指示				
45、46	ユーザマニュアル・取扱説明書の書き方（１）							
47、48	ユーザマニュアル・取扱説明書の書き方（２）							
49、50	提案書の書き方（１）							
51、52	提案書の書き方（２）							
53、54	障害報告書の書き方（１）							
55、56	障害報告書の書き方（２）							
57、58	作品批評会（１）							
59、60	作品批評会（２）							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							なし	秀、S（４）：９０点以上
小テスト							なし	優、A（３）：８０点以上
宿題授業外レポート		◎	○		◎		60	良、B（２）：７０点以上
授業態度							なし	可、C（１）：６０点以上
発表・作品		◎	○		◎		40	不可、E（０）：５９点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ロボット工学概論	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	ロボット工学は様々な理論・技術から構成されており、その習得には非常に幅広い領域を学習する必要がある。そこで本科目はロボット工学の中でも、マニピュレータの制御について制御学習する。本科目は人型二足歩行ロボットNaoの四肢を制御して、歩行させたり、何かを掴ませたり等のロボット制御プログラミングを作成できるようになることを目的に、マニピュレータ制御、運動力学、解析力学を学習する。				
授業の一般目標	①並進運動におけるP制御とPD制御の違いを数式を用いて説明できる ②回転系のPD制御について力学的観点から原理を説明できる ③一般的なアクチュエータとセンサの特徴を説明できる ④動力学と静力学の違いを数式を用いて説明できる ⑤2リンク2関節マニピュレータの運動方程式を解くことができる				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・イラストで学ぶロボット工学 木野仁（サイエンス・アイ新書）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・統計学で用いられる数式を見て、その式が表していることを説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・多大な情報を、目的に応じた数理統計学の手法を用いて分析・解析することができる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1～4	「オリエンテーション」 ・ ロボットとは何か ・ ロボット工学の基礎知識 ・ ロボットの要素技術とマニピュレータ制御				
5～8	「基本的な制御(並進系)」 ・ 並進系の力学 ・ 並進運動におけるP制御 ・ 並進運動におけるPD制御				
9～12	「基本的な制御(回転系)」 ・ 回転系の力学 ・ 並進系と回転系の類似性 ・ 回転運動におけるPD制御				
13～16	「自由度と座標系」 ・ 自由度の概念 ・ 非冗長と冗長 ・ 関節と手先の座標系				
17～20	「順運動学と逆運動学」 ・ 順運動学 ・ 逆運動学 ・ 冗長マニピュレータの運動学				
21～24	「ロボット用アクチュエータ」 ・ ロボット用アクチュエータの種類 ・ 電磁駆動アクチュエータ・油圧駆動アクチュエータ ・ DA変換器				
25～28	「ロボット用センサ」 ・ ロボット用センサの種類 ・ 角度センサ・角速度センサ ・ AD変換器				
29～32	「関節座標系の位置制御」 ・ PTP制御と軌道制御 ・ 関節座標系PD制御 ・ 重力補償				
33～36	「速度制御」 ・ ベクトル・行列の基礎 ・ 速度関係とヤコビ行列 ・ 分解速度法による軌道制御				

37～40	「力制御と作業座標系 PD 制御」 ・ フィードフォワードによる力制御 ・ フィードバックによる力制御 ・ 作業座標系PD制御法		
41～44	「人工ポテンシャル法と移動ロボットへの応用」 ・ 人工ポテンシャル法 ・ 作業座標系制御における障害物回避 ・ 移動ロボットの位置制御への応用		
45～48	「解析力学の基礎」 ・ 静力学と動力学 ・ ラグランジュ法による運動方程式の導出 ・ 運動方程式の計算		
49～52	「ロボットの動力学」 ・ 2リンク2関節マニピュレータの運動方程式 ・ 順動力学と逆動力学 ・ 計算トルク法による軌道制御		
52～56	「インピーダンス制御」 ・ ドアノブ問題 ・ インピーダンス制御 ・ コンプライアンス制御		
57～60	「まとめ」 ・ マニピュレータの構造 ・ 受動歩行ロボット ・ ロボットの知能化		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ロボットプログラミング	単位数	4	科目コード				
授業形態	演習	時間数	60	開設期	1 年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	人型二足歩行ロボットNAOは、Pythonプログラミングによって、より低レベルな制御から高度なアプリケーション開発が可能である。NAOで動作するミドルウェアNAOqiを用いることで、アプリケーションやサービス間の通信を行うことができ、また、カメラ、センサー、マイク、モーターなどNAOに搭載された各種デバイスの制御が可能である。 本授業ではNAO上で動作する人工知能やチャットボットの実装を目標に、ロボットプログラミングを学習する。							
授業の一般目標	① NAOに搭載された各種デバイスの制御できる ② NAOにスピーチやダンスなどのパフォーマンスを実演させることができる ③ NAOと会話をするチャットプログラムを作ることができる ④ NAOqiのAPIを活用することができる							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 ・ NAO各種デバイスの制御方法を理解し、説明することができる								
☐ 思考・判断の観点 ・ NAOに目的の動作をさせるためのアルゴリズムを考えることができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・ 不明なAPIに関しては、ネット上のドキュメントを調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・ Pythonを使ってNAOのプログラミングを作ることができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等	授業の記録			
1～4	オリエンテーション、開発環境の構築							
5～8	NAOに会話をさせる（1）							
9～12	NAOに会話をさせる（2）							
13～16	NAOに会話をさせる（3）							
17～20	NAOの四肢を動かす（1）							
21～24	NAOの四肢を動かす（2）							
25～28	NAOの四肢を動かす（3）							
29～32	センサを用いた自律動作（1）							
33～36	センサを用いた自律動作（2）							
37～40	センサを用いた自律動作（3）							
41～44	センサを用いた自律動作（4）							
45～48	顔認証（1）							
49～52	顔認証（2）							
52～56	顔認証（3）							
57～60	まとめ							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○		◎		50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート	○	◎	○		◎		50	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	統計学	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	数理統計学を応用した計算はコンピュータで容易に行うことができる。また、そのためのプログラムパッケージや統計用ライブラリも数多く作られている。しかし、その意味が分からずに、ただプログラムを用いて計算をしてもその結果を正しく利用することはできない。また場合によっては誤った判断を下すことになる危険性がある。 本科目は統計的な考え方や統計的手法の基礎を理解することを目的に、記述統計学、確率・確率分布と統計的推測の基礎的な部分、統計調査と調査データについて学習する。							
授業の一般目標	①偶然的な変動を数学的に扱う方法を理解する ②大量のデータ全体の傾向を把握するための方法を理解する ③確率的な現象を表す確率分布の代表的なものの特徴を理解する ④ある集団について全体でなく部分から推測する方法を理解する ⑤仮説の下で期待される結果と観測した結果との差異を確率的に評価する方法を理解する							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・マンガでわかる統計学 素朴な疑問からゆる〜く解説 大上文彦（サイエンス・アイ新書）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 ・統計学で用いられる数式を見て、その式が表していることを説明できる								
☐ 思考・判断の観点 ・多大な情報を、目的に応じた数理統計学の手法を用いて分析・解析することができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録			
1、2	イントロダクション、統計学の基礎							
3、4	統計データと統計手法、分析プロセス							
5、6	度数分布とヒストグラム							
7、8	代表値と散らばりの尺度							
9、10	散布図と分割表							
11、12	相関係数							
13、14	ランダムネスと確率							
15、16	確率の加法定理							
17、18	条件付確率と独立性							
19、20	確率変数と確率分布							
21、22	確率変数の期待値と分散							
23、24	一様分布							
25、26	正規分布							
27、28	二項分布							
29、30	ポアソン分布と指数分布							
31、32	同時確率分布と周辺確率分布							
33、34	条件付確率分布と独立な確率変数							
35、36	多次元正規分布							
37、38	大数の法則と中心極限定理							
39、40	母集団と標本							
41、42	母数と統計量							
43、44	統計量の標本分布							
45、46	有限母集団と有限母集団修正							
47、48	点推定と区間推定							
49、50	仮説検定							
51、52	正規母集団に対する仮説検定							
53、54	中心極限定理を用いる検定							
55、56	回帰分析							
57、58	回帰係数の推定							
59、60	総括							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	データサイエンス	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	データサイエンスは社会に溢れる様々なデータあるいは情報から何らかの価値あるいは「知」を引き出す新しい学問分野である。データサイエンスの基礎は、データの分析手法や統計学であるが、本科目ではリアルな生データであるオープンデータを用いてこれらの学習を進める。これによって、現実的な問題に取り組むことができる能力を養う。							
授業の一般目標	・ 推定、検定の基礎である正規母集団について理解する ・ 様々な検定法を理解し、実際のデータ処理に応用する ・ 機械学習メカニズムを理解し、計算機プログラミングができる ・ 主なデータ分類アルゴリズムを理解する ・ ツールやプログラミングなどの手段で実際にデータを分析できる							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・ 統計学入門 東京大学教養学部統計学教室 （東京大学出版）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 ・ 推定、検定の基礎である正規母集団について理解し、説明することができる ・ 主なデータ分類アルゴリズムを理解し、説明することができる								
☐ 思考・判断の観点 ・ 様々な検定法を理解し、実際のデータ処理に応用することができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・ 学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・ 機械学習メカニズムを理解し、計算機プログラミングができる ・ ツールやプログラミングなどの手段で実際にデータを分析できる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録			
1～4	イントロダクション、標本分布について							
5～8	点推定と区間推定							
9～12	仮説検定（基本的な事項と各種検定法）							
13～16	仮説検定（各種検討法）							
17～20	復習と達成度確認テスト							
21～24	学習のための数学的基礎（最急降下法）							
25～28	学習のための数学的基礎（最尤推定法）							
29～32	学習のための数学的基礎（ベイズ推定）							
33～36	学習及び制御メカニズム（誤差逆伝搬を中心に）							
37～40	復習と達成度確認テスト							
41～44	テキストデータと前処理（言語データの種類、文字コード、ノイズ除去など）							
45～48	データ分類手法（決定木、最近傍法、SVMなど）							
49～52	テキスト解析（類似性、重要性、共起など）							
52～56	テキスト処理システム（推薦システム、評判分析、システム評価など）							
57～60	復習と達成度確認テスト、総括							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			◎		50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○		◎		50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	資格対策Ⅰ	単位数	4	科目コード				
授業形態	演習	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	この授業科目は目標とする検定資格（ITパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。							
授業の一般目標	それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	検定試験対策							
5～8	検定試験対策							
9～12	検定試験対策							
13～16	検定試験対策							
17～20	検定試験対策							
21～24	検定試験対策							
25～28	検定試験対策							
29～32	検定試験対策							
33～36	検定試験対策							
37～40	検定試験対策							
41～44	検定試験対策							
45～48	検定試験対策							
49～52	検定試験対策							
52～56	検定試験対策							
57～60	検定試験対策							
成績評価方法								
1 授業内で小テスト（模擬試験）を行う。 2 目標とする検定試験に合格した場合は加点を行う 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	○	○		○		100	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	資格対策Ⅱ	単位数	4	科目コード				
授業形態	演習	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、 目標とする資格・検定等)	この授業科目は目標とする検定資格（ＩＴパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。							
授業の一般目標	それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	検定試験対策							
5～8	検定試験対策							
9～12	検定試験対策							
13～16	検定試験対策							
17～20	検定試験対策							
21～24	検定試験対策							
25～28	検定試験対策							
29～32	検定試験対策							
33～36	検定試験対策							
37～40	検定試験対策							
41～44	検定試験対策							
45～48	検定試験対策							
49～52	検定試験対策							
52～56	検定試験対策							
57～60	検定試験対策							
成績評価方法								
1 授業内で小テスト（模擬試験）を行う。 2 目標とする検定試験に合格した場合は加点を行う 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	○	○		○		100	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	人工知能概論	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要 （目的、 目標とする資格・検定等）	人工知能（AI）は、コンピュータに「知的」なふるまいをさせることを目標とした技術分野であり、Society 5.0においてもIoTやビッグデータと並んで中心的な技術とされている。本科目では、人工知能を用いて問題解決をするための考え方や基本知識を理解することを目標として、人工知能の定義、人工知能の歴史、古典的な技術に加えて、深層学習（ディープラーニング）の基本について学習する。				
授業の一般目標	①人工知能の概念と現在までの技術的な流れについて理解する ②人工知能における問題表現と解の探索の考え方を理解する ③機械学習、深層学習と古典的人工知能との違いを概念的に理解し、応用事例を把握する				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・イラストで学ぶ人工知能概論 谷口忠大 （講談社） ・はじめての人工知能 Excelで体験しながら学ぶAI 浅井登 （翔泳社）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・人工知能の概念と現在までの技術的な流れについて理解し、自分の言葉で説明できる ・機械学習、深層学習と古典的人工知能との違いを概念的に理解し、自分の言葉で説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・与えられた問題に対する状態空間表現を作成することができる ・与えられた問題の解決にふさわしい人工知能技術を選択できる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等		授業の記録	
1～4	「人工知能とは」 ・ イントロダクション ・ 人工知能の歴史 ・ 人工知能の基本問題				
5～8	「状態空間と基本的な探索」 ・ 状態空間表現 ・ 迷路からの状態空間構成 ・ 基本的な探索				
9～12	「最適経路の探索」 ・ 最適探索とヒューリスティックな知識 ・ 裁量優先探索 ・ A*アルゴリズム				
13～16	「ゲーム理論」 ・ 利得と回避行動 ・ 標準型ゲーム ・ 展開型ゲーム				
17～20	「確率とベイズ理論」 ・ 環境の不確実性 ・ ベイズの定理 ・ 確率システム				
21～24	「強化学習」 ・ マルコフ決定過程 ・ 割引累積報酬 ・ 価値観数				
25～28	「ベイズフィルタ」 ・ 位置推定の問題 ・ 部分観測マルコフ決定過程 ・ ベイズフィルタ				
29～32	「粒子フィルタ」 ・ ベイズフィルタの問題点 ・ モンテカルロ近似 ・ 粒子フィルタ				

33～36	「クラスタリング」 ・ K-means法 ・ 混合ガウス分布 ・ 階層的クラスタリング		
37～40	「パターン認識」 ・ パターン認識 ・ 回帰問題 ・ 分類問題		
41～44	「ファジィ理論」 ・ ファジィ推論 ・ ファジィ制御 ・ ファジィ関係		
45～48	「遺伝的アルゴリズム」 ・ 選択法 ・ 交叉法 ・ 組合せ最適化問題		
49～52	「ニューラルネットワーク」 ・ パーセプトロン ・ 誤差訂正学習 ・ ヘップ型学習		
52～56	「機械学習」 ・ 演繹学習 ・ 帰納学習 ・ 深層学習		
57～60	「まとめ」 ・ マルチエージェント ・ 知識と知能 ・ 人工知能と未来		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎					50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎	○				50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	A I プログラミング	単位数	4	科目コード	
授業形態	演習	時間数	60	開設期	1 年通年
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	人間の知的な振る舞いは知覚や推論、問題解決など幅広く、それらをコンピュータで実現するAI（人工知能）においても多くの手法が提案されている。本科目では人工知能分野の様々な手法を整理し、複数の代表的な考え方をコンピュータ上のプログラムを通して実践的に獲得する。それぞれの手法についてプログラムの挙動を確認し、何ができるのかを把握したうえで動作の仕組みを考察していく。Python, Java, C言語など何らかのプログラミング言語の知識を前提とする				
授業の一般目標	①「教師付き学習による分類」の手法を理解する ②「教師付き学習による予測」の手法を理解する ③「教師なし学習によるクラスタリング」の手法を理解する ④「教師なし学習による次元削減」の手法を理解する ⑤ PythoでA I を活用したプログラムを作成できる				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・Pythonではじめる機械学習　scikit-learnで学ぶ特徴量エンジニアリングと機械学習の基礎　Andreas C.Muller Sarah Guido　（オライリー・ジャパン）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・AIプログラムの特徴を理解し、自分の言葉で説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・AIプログラムを作成するにあたって、最適なライブラリを選択できる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・人工知能の手法を理解し、AIプログラムを記述できる					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1～4	「オリエンテーションとPython環境」 第1章 本科目の概要と構成 第2章 Python 実行環境の導入 第3章 演習 第4章 第1回のまとめ				
5～8	「多次元データと入出力」 第1章 Python における配列 第2章 配列データの可視化 第3章 演習 第4章 第2回のまとめ				
9～12	「遺伝的アルゴリズムによる最適化」 第1章 生物の進化を模倣する 第2章 進化のためのプログラム 第3章 演習 第4章 第3回のまとめ				
13～16	「クラス分類とクラスタリング」 第1章 分け方にも種類がある 第2章 分類とクラスタリングのプログラム 第3章 演習 第4章 第4回のまとめ				
17～20	「回帰による予測」 第1章 未知の値を予測する 第2章 コスト関数と勾配法 第3章 演習 第4章 第5回のまとめ				
21～24	「ニューラルネットワークによる分類(1)」 第1章 可否のパターンを学習する 第2章 ニューロンと伝播のプログラム 第3章 演習 第4章 第6回のまとめ				
25～28	「ニューラルネットワークによる分類(2)」 第1章 入出力を一括して処理する 第2章 ベクトルと行列によるプログラム 第3章 演習 第4章 第6回のまとめ				

29～32	「ナイーブベイズによる分類」 第1章 あいまいなデータ 第2章 ベイズの定理とその応用 第3章 演習 第4章 第8回のまとめ		
33～36	「主成分分析による次元削減」 第1章 多次元データを要約する 第2章 主成分分析のプログラム 第3章 演習 第4章 第9回のまとめ		
37～40	「サポートベクターマシンによる予測・分類」 第1章 線の引き方を選ぶ 第2章 マージンを最大化するプログラム 第3章 演習 第4章 第10回のまとめ		
41～44	「機械学習モデルの評価」 第1章 分類の結果を評価する 第2章 評価指標のプログラム 第3章 演習 第4章 第11回のまとめ		
45～48	「半教師あり学習」 第1章 少量の教師データを活かす 第2章 少量のデータから分類器を作る 第3章 演習 第4章 第12回のまとめ		
49～52	「強化学習による判断の獲得」 第1章 試行錯誤から学習する 第2章 報酬を最大化するプログラム 第3章 演習 第4章 第13回のまとめ		
52～56	「バンディットアルゴリズムによる最適化」 第1章 選択の効率を考える 第2章 トレードオフに対応するプログラム 第3章 演習 第4章 第14回のまとめ		
57～60	「まとめと今後の発展」 第1章 各手法の特徴を整理する 第2章 機械学習ではない手法 第3章 演習 第4章 第15回のまとめ		
成績評価方法			
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4			
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲
	態度	技能・表現	その他
	評価割合	成績評価基準	
定期試験	◎	○	
小テスト	◎	○	○
宿題授業外レポート			
授業態度			
発表・作品			
演習			
出席			
担当教員	実務経験紹介		

科目名	プロジェクトベースラーニング	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 （目的、目標とする 資格・検定等）	本授業では、COG2019及びオープンデータアプリコンテストに資する上流から実装に至る様々な技術を講義・演習を通じて実践し、形にしていくことを目標とする。							
授業の一般目標	思考技法（親和図法、連関図法、ヒアリング、ブ레인ストーム）、情報技術（Raspbian, Python, nginx, PHP, 他）							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参 考書等）	テキスト：「最新 Raspberry Piで学ぶ電子工作」金丸隆志著 講談社 ISBN978-4-06-257977-3 参考書：「これ一冊で出来る！ ラズベリー・パイ超入門」 福田和宏著 ソーテック社 ISBN978-4-8007-1172-4 ：「ラズパイマガジン」 日経ＢＰ （みんなのラズパイコンテスト作品等の資料として使う）							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 (1)業務課題、ニーズ等を把握し、実現方式まで落とし込むことによって、上流過程での分析、企画技術を理解する。 (2)Raspberry Piを通じて、センサーなどをつないだ電子回路を動作させることで、基礎的なコンピュータ技術を理解する。 (3)小型サーバーを立てて、基礎的なWebサーバーやネットワーク技術を理解する。								
☒ 思考・判断の観点 (1)問題点分析、ニーズ把握に対して思考技術（ロジカルシンキング、ヒアリング等）を身につける。 (2)課題解決のための手段展開を行い、基本的な計画策定が出来るよう思考技術を体験する。								
☒ 関心・意欲の観点 (1)IoT、サーバーなどコンピュータで実現する方法が多くあることを学び、ＩＴに関する関心を高める。 (2)意欲的に取り組み、入力を増やすことによって、良いアウトプットが出ることを体感する。								
☒ 態度の観点 (1)仲間を尊重し、自らもリーダーシップを発揮することでプロジェクトを円滑に進行させる態度を身につける。								
☒ 技能・表現の観点 (1)自分たちの成果が、UX(User Experience)を通じて、使う人に感動を与えることを学ぶ。 (2)実装技術のみならず、それをプレゼンテーションする資料、表現方法を学ぶ。								
授業計画（全体）								
(1)小型コンピュータ（ラズパイ）でも出来ることを学ぶ。（IoT、UNIXサーバー） 1～4回次 (2)問題解決技法を用いて、基本計画書、プロジェクト計画書を作成し、プロジェクトを発足する。5～8回次 (3)リインストールアップのための、エクストリーム・プログラミングの実施 9～14回次 (4)成果発表 15回次								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	座学（サーバーで何ができるのか、夢をレポートで提出）		教科書を読んでおくこと（２章まで）					
5～8	Raspberry Pi設定、VNC他の設定、UNIXサーバーとして起動		教科書を読んでおくこと（５章まで）					
9～12	プログラミングによるＬＥＤ点灯、WebIOPiでの接続							
13～16	チームビルド、HTML、PHPによるWebサーバー立ち上げ							
17～20	問題解決技法（ヒアリング）		秋穂エビ、阿東シードル					
21～24	問題解決技法（ＫＪ法、問題関連図、目的手段展開）		基本計画書用プレゼン資料準備					
25～28	基本計画書発表		フィールドワークのアポイント					
29～32	プロジェクト計画、システム計画、計画発表							
33～36	システム設計							
37～40	プログラム作成							
41～44	プログラム作成							
45～48	フィールドワーク（UXヒアリング、ピボット）							
49～52	システム設計、プログラム作成							
53～56	システム設計、プログラム作成、最終プレゼン準備							
57～60	小テスト、最終プレゼン（デモを含む）							
成績評価方法								
1 授業で出した課題を提出し、理解度をチェック 2 チームで完成させた成果物及び説明プレゼンを通じて理解度をチェック 3 演習や授業態度を見て、関心・意欲をチェック 4 出席が半分に満たないもの、授業中の態度が著しく悪いものは評価しない								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価せず	秀、S（４）：９０点以上
小テスト	◎	◎			◎		20	優、A（３）：８０点以上
宿題授業外レポート							評価せず	良、B（２）：７０点以上
授業態度			◎	◎			20	可、C（１）：６０点以上
発表・作品	◎	◎	◎	◎	◎		40	不可、E（０）：５９点未満
演習		◎	◎	◎			20	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	中村 誠			実務経験紹 介	企業での情報システム部門で勤務後、現在はＩＴコンサルタント http://www.shonanwind.com/profile.html			

科目名	進級制作Ⅰ	単位数	10	科目コード				
授業形態	演習	時間数	150	開設期	1年通年			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、 目標とする資格・検定等)	進級制作は希望するテーマにそったプログラムやビジネスモデル等の創作を一年間かけて実施する。 前期の進級制作Ⅰでは、作品を制作する前段階として、文献調査や技術研究を行う。その成果について中間発表を行い、指導教員の評価を受ける。上記の進め方は典型的なケースでテーマにより他の類似の方法をとることもある							
授業の一般目標	主体的に取り組む創作活動を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を習得する。 1. 希望するテーマにそった作品を制作する。 2. 制作スケジュールをたてる。 3. 制作に必要なデータを収集し、分析を行う。 4. 作品の制作に必要な新技術の実験・検証を行う。 5. 得られた結果の意味や意義について考察する。 6. 作品の制作によって得られた知見をまとめ、レポート、仕様書などを作成し、口頭発表を行う。							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点								
☐ 思考・判断の観点								
☐ 関心・意欲の観点 ・自ら主体となって作品の制作を進めることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・納期内に、テーマにそった作品を完成させることができる ・成果を分かりやすくレポートにまとめることができる ・成果を分かりやすく発表することができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～5	オリエンテーション、「テーマ」の説明							
6～10	調査・研究・実験							
11～15	調査・研究・実験							
16～20	調査・研究・実験							
21～25	調査・研究・実験							
26～30	調査・研究・実験							
31～35	調査・研究・実験							
36～40	調査・研究・実験							
41～45	調査・研究・実験							
46～50	調査・研究・実験							
51～55	調査・研究・実験							
56～60	調査・研究・実験							
61～65	調査・研究・実験							
66～70	調査・研究・実験							
71～75	調査・研究・実験							
76～80	調査・研究・実験							
81～85	調査・研究・実験							
86～90	調査・研究・実験							
91～95	調査・研究・実験							
96～100	調査・研究・実験							
101～105	調査・研究・実験							
106～110	調査・研究・実験							
111～115	調査・研究・実験							
116～120	調査・研究・実験							
121～125	調査・研究・実験							
126～130	調査・研究・実験、レポート作成							
131～135	調査・研究・実験、レポート作成							
136～140	調査・研究・実験、レポート作成							
141～145	調査・研究・実験、レポート作成							
146～150	中間発表							
成績評価方法								
1 授業内で小テスト（模擬試験）を行う。 2 目標とする検定試験に合格した場合は加点を行う 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験					◎		35	秀、S（4）：90点以上
小テスト			○		◎		65	優、A（3）：80点以上

宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上 可、C（1）：60点以上 不可、E（0）：59点未満 未修得、履修放棄、F （ ）内はGPA点数
授業態度							なし	
発表・作品							なし	
演習							なし	
出席							なし	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	進級制作Ⅱ		単位数	10	科目コード			
授業形態	演習		時間数	150	開設期	1 年通年		
受講条件			開設時期		教員実務経験対象	無		
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	進級制作は希望するテーマにそったプログラムやビジネスモデル等の創作を一年間かけて実施する。 後期の進級制作Ⅱでは実際に作品を制作し、一年間の集大成とする。完成した作品の成果について発表会を行い、指導教員の評価を受ける。上記の進め方は典型的なケースでテーマにより他の類似の方法をとることもある							
授業の一般目標	主体的に取り組む創作活動を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を習得する。 1. 希望するテーマにそった作品を制作する。 2. 制作スケジュールをたてる。 3. 制作に必要なデータを収集し、分析を行う。 4. 作品の制作に必要な新技術の実験・検証を行う。 5. 得られた結果の意味や意義について考察する。 6. 作品の制作によって得られた知見をまとめ、レポート、仕様書などを作成し、口頭発表を行う。							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点								
☐ 思考・判断の観点								
☐ 関心・意欲の観点 ・自ら主体となって作品の制作を進めることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・納期内に、テーマにそった作品を完成させることができる ・成果を分かりやすくレポートにまとめることができる ・成果を分かりやすく発表することができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～5	制作活動							
6～10	制作活動							
11～15	制作活動							
16～20	制作活動							
21～25	制作活動							
26～30	制作活動							
31～35	制作活動							
36～40	制作活動							
41～45	制作活動							
46～50	制作活動							
51～55	制作活動							
56～60	制作活動							
61～65	制作活動							
66～70	制作活動							
71～75	制作活動							
76～80	制作活動							
81～85	制作活動							
86～90	制作活動							
91～95	制作活動							
96～100	制作活動							
101～105	制作活動							
106～110	制作活動							
111～115	制作活動							
116～120	制作活動							
121～125	制作活動							
126～130	レポート作成、発表準備							
131～135	レポート作成、発表準備							
136～140	レポート作成、発表準備							
141～145	レポート作成、発表準備							
146～150	作品発表会							
成績評価方法								
1 授業内で小テスト（模擬試験）を行う。 2 目標とする検定試験に合格した場合は加点を行う 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験					◎		35	秀、S（4）：90点以上

小テスト			○		◎		65	優、A（3）：80点以上 良、B（2）：70点以上 可、C（1）：60点以上 不可、E（0）：59点未満 未修得、履修放棄、F （ ）内はGPA点数
宿題授業外レポート							なし	
授業態度							なし	
発表・作品							なし	
演習							なし	
出席							なし	
担当教員			実務経験紹介					

科目名	事業創造詳論	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	2年生前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	受講生が自ら成功する事業を構想し、事業計画書（ビジネスプラン）を作成することで、事業を創造できるようになることを目的とした講義を行う。将来の収益事業をいかに創造するかという課題について、戦略・組織・財務などの経営学の側面から講義をし、経営に関する基本的知識の再確認を目標とする。起業家や企業の新規事業担当者のみならず、一般のビジネスパーソンにとっても、経営学の知識の具体的な活用法の習得機会となることを目指す。				
授業の一般目標	①事業計画を作成するにあたって、ビジョンの重要性を理解する ②事業計画の構成内容について理解する ③事業計画を作成するために、経営論の各論を理解する ④事業計画の具体的な記載方法について理解する ⑤事業計画を相手に伝えることの重要性を理解する ⑥エグゼクティブサマリーの重要性について理解する ⑦エグゼクティブサマリーの項目の書き方について理解する				
受講条件	起業入門の単位を修得済みであること。				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・CD-ROM付 ゼロからわかる 事業計画書の作り方 井口嘉則（日本能率協会マネージメントセンター） ・マンガでやさしくわかる事業計画書(ダウンロードサービス付) 井口嘉則（日本能率協会マネージメントセンター）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・事業計画書（ビジネスプラン）を作る意義、全体構成と作成上の要点、活用場面などについて自分の言葉で説明できる ・ベンチャーと中小企業の事業展開の仕方の違いを自分の言葉で説明できる ・エグゼクティブサマリーとはどのようなものか、構成項目の記載方法、留意点、などについて説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・事業計画に使う収支予測をたてることができる ・事業開始前に、さまざまなリスクを想定し、対応策を立案できる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録
1～4	「オリエンテーション」 第1章 本講義の概要 第2章 ビジネスプランの意義 第3章 ビジネスプランの構成 第4章 事業計画書の活用				
5～8	「ビジョン・ミッション・経営理念」 第1章 ビジョン・ミッションとは何か 第2章 経営理念 第3章 組織文化 第4章 ベンチャーと中小企業				
9～12	「ビジネスモデルと戦略」 第1章 ターゲット市場 第2章 ビジネスモデルとは何か 第3章 事業戦略 第4章 マーケティングとオペレーション				
13～16	「収益計画とチーム」 第1章 予測財務諸表 第2章 キャッシュフローと損益分岐点 第3章 マネジメントチームとリーダーシップ 第4章 第1部のまとめ				
17～20	「事業計画書作成の基本」 第1章 新規事業の立上げステップ 第2章 成功するビジネスプランとは 第3章 アイデアの具体化 第4章 事業計画書の基本構成				
21～24	「事業計画書の導入部分」 第1章 自己紹介のポイント 第2章 提案の背景と事業コンセプト				

25～28	「ターゲット顧客」 第1章 顧客セグメンテーションと顧客ニーズ 第2章 市場規模の推定 第3章 情報収集と調査 第4章 競合との比較		
29～32	「マーケティング」 第1章 マーケティングミックス 第2章 マーケティング戦略 第3章 グループインタビュー 第4章 広告宣伝		
33～36	「事業収支計画」 第1章 売上と利益 第2章 投資回収 第3章 収支計画表 第4章 資本政策		
37～40	「事業の立上げ計画」 第1章 事業の立上げ計画 第2章 想定されるリスクへの対応 第3章 プレゼンテーション 第4章 第2部のまとめ		
41～44	「事業計画書の前半部分」 第1章 導入部分と事業ビジョン 第2章 商品・サービスの特長とビジネスモデル 第3章 ターゲット市場と市場規模 第4章 顧客・ユーザー特性		
45～48	「事業計画書の後半部分」 第1章 競争優位性の説明方法 第2章 戦略的提携と事業戦略のまとめ 第3章 全体スケジュール 第4章 社内組織		
49～52	「事業計画書作成の留意点」 第1章 実行計画・数値計画・事業リスク 第2章 事業計画に多く見られる問題点 第3章 事業計画書作成チェックリスト（1） 第4章 事業計画書作成チェックリスト（2）		
52～56	「エグゼクティブサマリー」 第1章 E Sとはどのようなものか 第2章 E Sの構成とまとめ方 第3章 E S作成の留意点 第4章 期末試験課題について		
57～60	「全体のまとめ」 第1章 第1回～第10回までのまとめ 第2章 「事業計画作成の実際」のまとめ(1) 第3章 「事業計画作成の実際」のまとめ(2) 第4章 総括		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					35	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○				65	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	統計解析とデータマイニング	単位数	4	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	2年生前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	現代社会においてはさまざまな履歴(webアクセス、投稿、購買、移動など)が逐一、データとして蓄積されるようになった。多種多様でリアルタイム性の高い大規模データを分析し、ビジネスにおける意思決定や問題解決に活用しようという動きはますます盛んになっている。こうした背景のもと、データ分析を行い未来を予測することができるスキルを持つ人材はデータサイエンティストとして重要視されている。本科目では、データサイエンティストにとって必要とされる知識やスキルのうち、統計解析や各種データマイニング手法、機械学習などの理論を学習する。さらに、高機能な統計解析フリーソフトウェアの「R」を用いたデータ分析手法の実践を通じて簡単なデータ分析ができるスキルを身につけることを目的とする。				
授業の一般目標	①データマイニングの概要を理解する ②データマイニングのプロセスを理解する ③統計解析の各手法を正しく理解する ④データマイニングの各手法を正しく理解する ⑤Rを用いて基本統計量を求め、可視化することができる ⑥Rを用いて推定と検定を行うことができる ⑦Rを用いて多変量解析を行うことができる ⑧Rを用いてクラスター分析、決定木学習、アソシエーション分析を行うことができる				
受講条件	ビジネス事例から学ぶ統計入門の単位を修得済みであること。				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・Rによる統計解析 青木繁伸（オーム社） ・Rによるデータサイエンス 金明哲（森北出版） ・Rによるデータマイニング入門 山本義郎, 藤野友和, 久保田貴文（オーム社）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・データマイニングの概要を理解し、自分の言葉で説明できる ・データマイニングの各手法を正しく理解し、自分の言葉で説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・統計解析の各手法を正しく理解し、問題に対して適切な手法を選択できる ・データマイニングの各手法を正しく理解し、問題に対して適切な手法を選択できる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・Rを用いて基本統計量を求め、可視化することができる ・Rを用いてクラスター分析、決定木学習、アソシエーション分析を行うことができる					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録
1～4	「オリエンテーション」 第1章 本科目の概要 第2章 統計的手法とは 第3章 データマイニングとは 第4章 ビッグデータ時代の到来				
5～8	「Rを使う」 第1章 Rとは何か 第2章 Rのインストール 第3章 Rでできること 第4章 Rで簡単な計算				
9～12	「Rで扱うデータ構造」 第1章 Rで扱うデータ構造の概要 第2章 ベクトル 第3章 配列 第4章 データフレーム				
13～16	「基本統計量の可視化」 第1章 基本統計量の概要 第2章 Rで基本統計量の計算 第3章 Rで基本統計量の可視化 第4章 さまざまな描画機能				
17～20	「相関と回帰」 第1章 二変量統計の概要 第2章 相関 第3章 Rで散布図を描く 第4章 Rで単回帰分析				
21～24	「推定と検定」 第1章 推定の概要 第2章 検定の概要 第3章 Rで推定 第4章 Rで検定				

25～28	「重回帰分析」 第1章 多変量解析の概要 第2章 重回帰分析の概要 第3章 重回帰分析の事例 第4章 Rで重回帰分析		
29～32	「ロジスティック回帰分析」 第1章 ロジスティック回帰の概要 第2章 ロジスティック回帰の事例 第3章 ロジスティック回帰式の係数 第4章 Rでロジスティック回帰分析		
33～36	「クラスター分析（１）」 第1章 クラスター分析の概要 第2章 階層的クラスター分析 第3章 Rで階層的クラスター分析(1) 第4章 Rで階層的クラスター分析(2)		
37～40	「クラスター分析(2)」 第1章 非階層的クラスター分析の概要 第2章 非階層的クラスター分析の事例 第3章 Rで非階層的クラスター分析(1) 第4章 Rで非階層的クラスター分析(2)		
41～44	「決定木」 第1章 決定木の概要 第2章 決定木のアルゴリズム 第3章 Rで決定木学習(1) 第4章 Rで決定木学習(2)		
45～48	「アソシエーション分析」 第1章 アソシエーション分析の概要 第2章 Aprioriアルゴリズム 第3章 Rでアソシエーション分析(1) 第4章 Rでアソシエーション分析(2)		
49～52	「さまざまな機械学習」 第1章 機械学習の概要 第2章 Rでさまざまな機械学習(1) 第3章 Rでさまざまな機械学習(2) 第4章 Rでさまざまな機械学習(3)		
52～56	「テキストマイニングの基礎」 第1章 テキストマイニングの概要 第2章 形態素解析 第3章 Rでテキストマイニング(1) 第4章 Rでテキストマイニング(2)		
57～60	「まとめ」 第1章 データマイニングのプロセス 第2章 データの加工 第3章 Rで統計解析まとめ 第4章 Rでデータマイニングまとめ		

成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎		30	秀、S（４）：９０点以上
小テスト	○	◎	○		◎		55	優、A（３）：８０点以上
宿題授業外レポート	○	◎	○		◎		15	良、B（２）：７０点以上
授業態度							なし	可、C（１）：６０点以上
発表・作品							なし	不可、E（０）：５９点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	研究プロジェクトⅠ		単位数	8	科目コード			
授業形態	講義		時間数	120	開設期	2年生前期		
受講条件			開設時期		教員実務経験対象	無		
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	教員が提示するテーマの入門的テキスト・専門書・解説論文などを取り上げ輪講を行う。もしくは教員が提示するテーマから各自が異なるテーマを選択し、独自の発想でテーマを追求する。各自が担当する範囲・分野について、予め調査（参考文献の収集など）・学習・まとめを行い、その結果を他のメンバーに資料・スライドなどを使って説明するとともに、全員でディベートを行う。履修者全員が当該分野の技術・理論などについて共通の知識を獲得することが目的である。なお、上記の進め方は典型的なケースで、担当教員のテーマにより他の類似の方法をとることもある。							
授業の一般目標	①調査内容を発表できること ②文献を調査することができること ③文献に書かれた内容を理解し、人に教えることができること							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点								
☐ 思考・判断の観点 ・教員に与えられたテーマに関するデータを調査して、独自の発想でまとめることができる ・ディベートにおいて的確な質問をすることができる ・ディベートにおいて受けた質問に対して的確な返答をすることができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・教員に与えられたテーマに関するデータを、文献や論文、報告書等を活用して調べることができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・教員に与えられたテーマに関する調査結果を分かりやすくレポートにまとめ、発表することができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～4	オリエンテーション、「テーマ1」の解説							
5～8	「テーマ1」の進捗確認・調査・研究							
9～12	「テーマ1」の進捗確認・調査・研究							
13～16	「テーマ1」のレポート作成							
17～20	「テーマ2」の解説							
21～24	「テーマ2」の進捗確認・調査・研究							
25～28	「テーマ2」の進捗確認・調査・研究							
29～32	「テーマ2」の進捗確認・調査・研究							
33～36	「テーマ2」のディベート							
37～40	「テーマ3」の解説							
41～44	「テーマ3」の進捗確認・調査・研究							
45～48	「テーマ3」の進捗確認・調査・研究							
49～52	「テーマ3」の進捗確認・調査・研究							
52～56	「テーマ3」の進捗確認・調査・研究							
57～60	「テーマ3」のディベート							
61～64	「テーマ4」の解説							
65～68	「テーマ4」の進捗確認・調査・研究							
69～72	「テーマ4」の進捗確認・調査・研究							
73～76	「テーマ4」の進捗確認・調査・研究							
77～80	「テーマ4」の進捗確認・調査・研究							
81～84	「テーマ4」の進捗確認・調査・研究							
85～88	「テーマ4」のディベート							
89～92	「テーマ5」の解説							
93～96	「テーマ5」の進捗確認・調査・研究							
97～100	「テーマ5」の進捗確認・調査・研究							
101～104	「テーマ5」の進捗確認・調査・研究							
105～108	「テーマ5」の進捗確認・調査・研究							
109～112	「テーマ5」の進捗確認・調査・研究							
113～116	「テーマ5」の進捗確認・調査・研究							
117～120	「テーマ5」のディベート							
成績評価方法								
1 プレゼンテーション：プレゼンテーションの内容と、発表スライド資料で評価								
2 ティベート：内容や各発表に関する議論の内容で評価								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート		◎	◎		◎		50	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品		◎	◎		◎		50	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	企業会計Ⅰ	単位数	6	科目コード	
授業形態	講義	時間数	90	開設期	2年生前期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	政府や自治体による振興政策の効果もあり、さまざまな経済活動が日本全国の地域で活発化している。その根幹となる事業活動は地域に根ざした製品やサービスの販売である。そのための商品マーケティングの地域別取組は千差万別である。本科目では北は北海道から南は沖縄まで、日本全国の地域に根ざした商品マーケティングの手法を検証・分析していく。授業の進行では地域発のヒット商品を生み出した企業や関係者との取材ビデオを交えて、成功するために不可欠な要素や有効なマーケティング戦略・戦術とは何であったのかを解説する				
授業の一般目標	①地域に根ざした商品づくり、街おこしに求められる要素を理解する。 ②実例を通して、マーケティング戦略・戦術に必要なキーワードを理解する。 ③受講生みずからが実践に役立つ考察を進められるスキルを習得する。				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・実例を通して、マーケティング戦略・戦術に必要なキーワードを理解し、自分の言葉で説明できる					
☐ 思考・判断の観点 ・地域に根ざした商品づくり、街おこしに求められる要素を理解し、実践に役立つ考察を進められる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・与えられたテーマに関する調査結果を分かりやすくレポートにまとめ、発表することができる					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録
1、2	イントロダクション				
3、4	六次産業の現状と課題①				
5、6	六次産業の現状と課題②				
7、8	コンセプト策定とその実践① 琉Qの概要				
9、10	コンセプト策定とその実践① 「座組み」の重要性				
11、12	コンセプト策定とその実践① 琉Qがもたらしたもの				
13、14	コンセプト策定とその実践② ファットリアビオ北海道の概要				
15、16	コンセプト策定とその実践② 「イノベーション」の意味				
17、18	コンセプト策定とその実践② ファットリアビオ北海道がもたらしたもの				
19、20	コンセプト策定とその実践③ RISE&WIN				
21、22	コンセプト策定とその実践③ 「戦略」と「戦術」の整理				
23、24	コンセプト策定とその実践③ RISE&WINがもたらしたもの				
25、26	商品開発における重要点① 色丸首の概要				
27、28	商品開発における重要点① 「過剰品質」の意義				
29、30	商品開発における重要点① 色丸首がもたらしたもの				
31、32	商品開発における重要点② マカロンレースマスクの概要				
33、34	商品開発における重要点② 「商品訴求」に必要な考え方				
35、36	商品開発における重要点② マカロンレースマスクがもたらしたもの				
37、38	商品開発における重要点③ マカロンレースマスクがもたらしたもの				
39、40	商品開発における重要点③ ブランド・マネジメントの方策 その一例を学ぶ				
41、42	商品開発における重要点③ パーミキュラ ライスボットがもたらしたもの				
43、44	プロモーションの実践① Knotの概要				
45、46	プロモーションの実践① クロスセリングの有効性を事例から学ぶ				
47、48	プロモーションの実践① Knotがもたらしたもの				
49、50	プロモーションの実践② 掛川 Cotton の概要				
51、52	プロモーションの実践② 足許の宝物を生かす方策を学ぶ				
53、54	プロモーションの実践② 足許の宝物を生かす方策を学ぶ				
55、56	プロモーションの実践③ そのままブーケの概要				
57、58	プロモーションの実践③ ポジショニングの作業				
59、60	プロモーションの実践③ そのままブーケがもたらしたもの				
61、62	地域おこしとマーケティング① 南さつま笠沙さつまからすみの概要				
63、64	地域おこしとマーケティング① シーズの生かし方を考える				
65、66	地域おこしとマーケティング① 南さつま笠沙さつまからすみがもたらしたもの				
67、68	地域おこしとマーケティング② 越中富山 幸のこわけの概要				
69、70	地域おこしとマーケティング② マーチャンダイジングのあり方を考える				
71、72	地域おこしとマーケティング② 越中富山 幸のこわけがもたらしたもの				
73、74	地域おこしとマーケティング③ 道の駅 みそぎの郷 きこないの概要				
75、76	地域おこしとマーケティング③ ターゲティングとは				
77、78	地域おこしとマーケティング③ みそぎの郷 きこないがもたらしたもの				
79、80	地域おこしとマーケティング④ 八戸の横丁の概要				
81、82	地域おこしとマーケティング④ 街なかマーケティングを成就させるには				
83、84	地域おこしとマーケティング④ 八戸の横丁がもたらしたもの				
85、86	地域の取り組みをどう伝えるか①				
87、88	地域の取り組みをどう伝えるか②				

89、90		地域の取り組みをどう伝えるか③、まとめ							
成績評価方法									
1 授業内で小テストを行う。									
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。									
3									
4									
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	
定期試験	○	◎			◎		20	秀、S（4）：90点以上	
小テスト							なし	優、A（3）：80点以上	
宿題授業外レポート		◎	◎		◎		40	良、B（2）：70点以上	
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上	
発表・作品		◎	◎				40	不可、E（0）：59点未満	
演習							なし	未修得、履修放棄、F	
出席							なし	（ ）内はGPA点数	
担当教員				実務経験紹介					

科目名	資格対策Ⅲ	単位数	4	科目コード				
授業形態	演習	時間数	60	開設期	2年生前期			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	この授業科目は目標とする検定資格（ＩＴパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。							
授業の一般目標	それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	検定試験対策							
5～8	検定試験対策							
9～12	検定試験対策							
13～16	検定試験対策							
17～20	検定試験対策							
21～24	検定試験対策							
25～28	検定試験対策							
29～32	検定試験対策							
33～36	検定試験対策							
37～40	検定試験対策							
41～44	検定試験対策							
45～48	検定試験対策							
49～52	検定試験対策							
52～56	検定試験対策							
57～60	検定試験対策							
成績評価方法								
1 授業内で小テスト（模擬試験）を行う。 2 目標とする検定試験に合格した場合は加点を行う 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					35	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○				65	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	コーポレート・ファイナンス		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義		時間数	60	開設期	2年生後期		
受講条件			開設時期		教員実務経験対象	無		
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	本科目では、企業における資金の調達・運用、設備投資等に関して包括的に学び、理論を正確に理解した上で、その応用力を身につけることを目的とする。具体的には、基本的なファイナンスに関する理論、企業における資金調達と資本構成の実態、資本コストの考え方やその算出方法、企業における配当政策、債権と株式の評価方法、現在価値の概念を用いてキャッシュ・フローを評価する方法、デリバティブに関する基本的な理論とリスクヘッジのためのデリバティブの利用などに関する知識を習得し、企業の財務意思決定の基礎理論を理解する。							
授業の一般目標	1. 企業会計における貸借対照表（B／S）の位置づけについて企業価値の観点から理解する。 2. 資金調達コストの考え方について理解し、計算できるようになる。 3. 投資判断の基準に使う計算方法を理解し、計算できるようになる。 4. 企業価値を高める金融手法について理解する。							
受講条件	「会計簿記入門」の単位を修得済みであること							
事前学習について（テキスト・参考書等）	・【増補改訂】 財務3表一休理解法（朝日新書） 國貞克則 （朝日新聞出版） ・財務3表実践活用法 会計でビジネスの全体像をつかむ（朝日新書） 國貞克則 （朝日新聞出版）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 学習した企業の財務意思決定における基礎理論を用いて、企業の資金の調達・運用、設備投資等に対する提案を立案することができる。								
☐ 思考・判断の観点 現在価値の概念を用いてキャッシュ・フローを評価することができる								
☐ 関心・意欲の観点 授業内で紹介した参考図書や関連情報を調べて、関連する新たな知識を取得することができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1、2	企業の活動							
3、4	企業価値と株主価値							
5、6	会計の体系、財務三表							
7、8	キャッシュフロー計算書の仕組み							
9、10	貸借対照表の仕組み							
11、12	損益計算書の仕組み							
13、14	投資の決定							
15、16	資金の調達							
17、18	負債と資本のコスト							
19、20	借入と資本の構成比							
21、22	株主資本コスト							
23、24	WACCの計算							
25、26	デリバティブとは何か							
27、28	金利スワップ							
29、30	現在価値・PVと将来価値・FV							
31、32	正味現在価値・NPV							
33、34	内部収益率 IRR							
35、36	投資判断							
37、38	外貨預金							
39、40	株価と企業価値							
41、42	簿価と時価							
43、44	デリバティブの種類							
45、46	ヘッジ取引と投機取引							
47、48	先物取引							
49、50	為替予約取引							
51、52	企業価値とEBITDA							
53、54	DCF法による評価							
55、56	M&Aのスキーム							
57、58	「企業会計の理解」「資金調達」のまとめ							
59、60	「投資判断」「企業価値」のまとめ							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。 2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○				50	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	◎					50	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

出席						なし	() 内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介			

科目名	企業会計Ⅱ	単位数	6	科目コード	
授業形態	講義	時間数	90	開設期	2年生後期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	本科目では、一国経済やグローバル経済など大きな視点から分析するマクロ経済学を扱う。まずは、GDP、利子率や外国為替レートの決まり方などを理解し、その知識を基に金融政策や財政政策が効果を発揮するメカニズムを学ぶ。将来、企業経営者や企業幹部になるために有益な、アダム・スミス、ケインズ、ハイエク、フリードマン、シュンペーターの5人の経済学の思想については、各々の理論という枠を超えて、その思想の社会的背景を踏まえて説明する。その経済思想が、現代の情報化経済にどのように結びついているかを考える。				
授業の一般目標	①GDP・利子率や外国為替レート・貿易構造の決定理論を説明できる。 ②金融政策の波及メカニズムおよび無効のケースを説明できる。 ③財政政策の効果と副作用を説明できる。 ④ケインズ派、マネタリスト、合理的期待形成学派の3大学派について、それらの前提条件の違いを明確にして、経済政策の効果に関する見解の違いを説明できる。 ⑤自由主義的なアダム・スミス、ハイエク、フリードマンの経済思想について、時代背景と前提条件の違いを明確にして、説明できる。 ⑥シュンペーターの時代背景と経済思想、および、複雑系経済学などを理解し、現代の日本においてイノベーションを活発化するために必要な対策を考え説明することができる。				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・試験攻略入門塾 速習！マクロ経済学 石川秀樹（中央経済社） ・アダム・スミス『道徳感情論』と『国富論』の世界 堂目卓生（中央公論新社）				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点 ・GDP・利子率や外国為替レート・貿易構造の決定理論を説明できる。 ・金融政策の波及メカニズムおよび無効のケースを説明できる。 ・財政政策の効果と副作用を説明できる。 ・ケインズ派、マネタリスト、合理的期待形成学派の3大学派について、それらの前提条件の違いを明確にして、経済政策の効果に関する見解の違いを説明できる。 ・自由主義的なアダム・スミス、ハイエク、フリードマンの経済思想について、時代背景と前提条件の違いを明確にして、説明できる。					
☐ 思考・判断の観点 ・シュンペーターの時代背景と経済思想、および、複雑系経済学などを理解し、現代の日本においてイノベーションを活発化するために必要な対策を考え説明することができる					
☐ 関心・意欲の観点 ・学習資料を見た上で、わからない専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1、2	オリエンテーション				
3、4	アダム・スミスの時代と経済理論				
5、6	アダム・スミスの道徳哲学				
7、8	アダム・スミスの思想の現代的解釈				
9、10	ケインズ以前の正統派経済学(古典派)				
11、12	有効需要の原理				
13、14	ケインズ理論の問題点				
15、16	GDP・GNP・三面等価の原則				
17、18	物価、貨幣、信用創造				
19、20	資産価格の決まり方				
21、22	流動性選好理論－利子率の決まり方－				
23、24	投資の限界効率理論				
25、26	投資量の決まり方				
27、28	加速度原理・ストック調整原理				
29、30	トービンのq・現実の投資判断				
31、32	比較生産費説				
33、34	ヘクシャー＝オリーンの定理				
35、36	グローバル金融取引				
37、38	国際収支				
39、40	外国為替レート				
41、42	金融政策の手段と波及ルート				
43、44	金融政策が無効のケース				
45、46	財政の3機能				
47、48	ビルト・イン・スタビライザー				
49、50	裁量的財政政策				
51、52	財政の持続可能性				
53、54	インフレーションとデフレーション				
55、56	フィリップス曲線と経済論争				
57、58	景気循環				
59、60	成長会計－経済成長の要因分析－				
61、62	ケインズ派と新古典派の経済成長理論				
63、64	内生的成長理論				
65、66	マクロ消費論争				

67、68	相対所得仮設・恒常所得仮設							
69、70	ライフサイクル仮説							
71、72	高齢化と貯蓄率							
73、74	ハイエクの思想と仮想通貨							
75、76	フリードマンの思想							
77、78	新自由主義							
79、80	イノベーション							
81、82	企業家の衰退							
83、84	複雑系経済とは							
85、86	ネットワーク外部性							
87、88	フリー経済、シェア経済							
89、90	人口動態と経済、まとめ							
成績評価方法								
1 授業内で小テストを行う。								
2 授業最終期末によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					50	秀、S（4）：90点以上 優、A（3）：80点以上 良、B（2）：70点以上 可、C（1）：60点以上 不可、E（0）：59点未満 未修得、履修放棄、F （ ）内はGPA点数
小テスト	○	◎	○				50	
宿題授業外レポート							なし	
授業態度							なし	
発表・作品							なし	
演習							なし	
出席							なし	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	資格対策Ⅳ	単位数	4	科目コード				
授業形態	講義	時間数	60	開設期	2年生後期			
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、 目標とする資格・検定等)	この授業科目は目標とする検定資格（ＩＴパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。							
授業の一般目標	それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件	なし							
事前学習について（テキスト・参考書等）	なし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☐ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	検定試験対策							
5～8	検定試験対策							
9～12	検定試験対策							
13～16	検定試験対策							
17～20	検定試験対策							
21～24	検定試験対策							
25～28	検定試験対策							
29～32	検定試験対策							
33～36	検定試験対策							
37～40	検定試験対策							
41～44	検定試験対策							
45～48	検定試験対策							
49～52	検定試験対策							
52～56	検定試験対策							
57～60	検定試験対策							
成績評価方法								
1 授業内で小テスト（模擬試験）を行う。 2 目標とする検定試験に合格した場合は加点を行う 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					35	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	◎	○				65	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							なし	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				

科目名	卒業研究	単位数	6	科目コード	
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2年生後期
受講条件		開設時期		教員実務経験対象	無
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	卒業研究では所属するプログラムに関連する研究テーマについて指導教員の指導の下で研究活動を遂行する。研究テーマはエントリー時に提出した計画書を基にして指導教員と相談して決定する。指導教員と1対1で議論を行いながら関連研究の整理、文献調査、研究を行う。その成果について中間発表を行い、指導教員の評価を受ける。さらに、研究の成果を卒業論文としてまとめる。上記の進め方は典型的なケースでテーマにより他の類似の方法をとることもある				
授業の一般目標	主体的に取り組む研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を習得する。 1. 所属するプログラムに関連する研究テーマにおいて、解決すべき現象・問題・疑問事項などの研究課題を明らかにする。 2. 研究課題を絞り込み、研究目的を明らかにする。 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。 4. 研究計画にそってデータを収集し、分析を行う。 5. 得られた結果の意味や意義について考察する。 6. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表を行う。				
受講条件	なし				
事前学習について（テキスト・参考書等）	・指導教員より提示				
授業の到達目標					
☐ 知識・理解の観点					
☐ 思考・判断の観点 ・研究課題に対して論理的、合理的な研究結果をだすことができる					
☐ 関心・意欲の観点 ・自ら主体となって研究を進めることができる					
☐ 態度の観点					
☐ 技能・表現の観点 ・研究成果を分かりやすく卒業論文にまとめることができる ・研究成果を分かりやすく発表することができる					
授業計画（全体）					
・卒業研究は、受講生が自ら主体となって研究を進めます。そのため、授業時間外の調査・研究が必須です ・各自が率先して研究を進め、定期的に実施する教員との面談において、進捗の報告、研究に対する議論を行ってください					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1、2	調査・研究（1）				
3、4	調査・研究（2）				
5、6	調査・研究（3）				
7、8	調査・研究（4）				
9、10	調査・研究（5）				
11、12	調査・研究（6）				
13、14	調査・研究（7）				
15、16	調査・研究（8）				
17、18	調査・研究（9）				
19、20	調査・研究（10）				
21、22	調査・研究（11）				
23、24	中間発表				
25、26	調査・研究（12）				
27、28	調査・研究（13）				
29、30	調査・研究（14）				
31、32	調査・研究（15）				
33、34	調査・研究（16）				
35、36	調査・研究（17）				
37、38	調査・研究（18）				
39、40	調査・研究（19）				
41、42	調査・研究（20）				
43、44	調査・研究（21）				
45、46	調査・研究（22）				
47、48	中間発表				
49、50	調査・研究（23）				
51、52	調査・研究（24）				
53、54	調査・研究（25）				
55、56	調査・研究（26）				
57、58	調査・研究（27）				
59、60	調査・研究（28）				
61、62	調査・研究（29）				
63、64	調査・研究（30）				

65、66	中間発表							
67、68	研究・論文執筆(1)							
69、70	研究・論文執筆(2)							
71、72	研究・論文執筆(3)							
73、74	研究・論文執筆(4)							
75、76	研究・論文執筆(5)							
77、78	研究・論文執筆(6)							
79、80	研究・論文執筆(7)							
81、82	研究・論文執筆(8)							
83、84	研究・論文執筆(9)							
85、86	研究・論文執筆(10)							
87、88	研究・論文執筆(11)							
89、90	研究・論文執筆(12)							
成績評価方法								
1 プレゼンテーション：プレゼンテーションの内容と、発表スライド資料、質疑応答の内容で評価								
2 卒業論文：論文の内容で評価								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							なし	良、B（2）：70点以上
授業態度							なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品		◎	◎		◎		100	不可、E（0）：59点未満
演習							なし	未修得、履修放棄、F
出席							なし	（ ）内はGPA点数
担当教員				実務経験紹介				